

科目	動物形態機能学	学科/学年	動物看護科 1年	時間数	90	授業回数	45
担 当 教 員		廣 田 典 子			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	講義
学 習 目 標		解剖学及び生理学の基礎を知り生命体としての動物を理解できるようにする。動物体の構造と機能について学習する。特にイヌやネコを基本に解剖学及び生理学を理解することを目指す。その他の動物についてもイヌやネコと比較しながら学ぶ。					
使 用 教 材		犬と猫の体の仕組み					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ ー マ		内 容				
1	体を構成する要素		動物細胞の構造、細胞内小器官の働きを学ぶ。				
2	体を構成する要素		動物細胞の構造、細胞内小器官の働きを学ぶ。				
3	体を構成する要素		動物細胞の階層（器官、組織、細胞について理解する。				
4	運動器系（骨格、筋肉）		骨の成分と働きを理解する。 骨の代謝について理解する。				
5	運動器系（骨格、筋肉）		関節の構造、種類、名称を学ぶ。 骨格（軸骨格、付属肢骨格、内臓骨格）を学ぶ。				
6	運動器系（骨格、筋肉）		動物種による歩行様式の違いを理解する。筋肉の種類とつくりを知る。筋肉の収縮のメカニズムを理解する。				
7	消化器系		歯の構造を知る（動物種による違いを学ぶ）。嚥下の仕組みについて学ぶ。				
8	消化器系		消化に関わる器官の構造（消化管、消化腺、動物種による違い）				
9	消化器系		消化に関わる器官の機能（栄養素を消化する仕組み、動物種による違い）				
10	消化器系		消化に関わる器官の機能（栄養素を体に取り込む仕組み、動物種による違い）。肝臓の機能。				
11	循環器系		循環器系の構成を理解する。（体循環、肺循環、門脈循環）。血管の構造を理解する（動脈、静脈、毛細血管）				
12	循環器系		リンパの流れについて学ぶ。心臓の構造について理解する。				
13	循環器系		リンパの流れについて学ぶ。心臓の構造について理解する。				
14	循環器系		心臓の興奮と伝達。心臓の収縮。心電図について理解する。				
15	血液		血液の組成（血漿成分）				

16	血液	血液の組成（血漿成分）
17	血液	血液の組成（血漿成分）
18	血液	血液の組成（細胞成分）、血液凝固
19	血液	血液の組成（細胞成分）、血液凝固
20	血液	血液の組成（細胞成分）、血液凝固
21	免疫	自然免疫と獲得免疫。 白血球の働き。
22	免疫	細胞性免疫と液性免疫。アレルギー（I~IV）。 免疫グロブリンの基本構造とサブクラス。
23	免疫	移行抗体の胎盤移行性について。 リンパ性付属器官
24	呼吸器系	呼吸器系の構造（鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺）
25	呼吸器系	呼吸器の機能① 外呼吸、内呼吸、肺胞におけるガス交換
26	呼吸器系	呼吸器の機能② 組織でのガス交換、酸素解離曲線
27	泌尿器系	泌尿器系の構造（腎臓、尿管、膀胱、尿管、尿道）
28	泌尿器系	泌尿器系の機能① 体液調整と尿生成について
29	泌尿器系	泌尿器系の機能② 体液調整と尿生成について。腎臓から分泌される生理活性物質について。
30	生殖器系	生殖器系の構造① イヌ、ネコ
31	生殖器系	生殖器系の構造② イヌ、ネコ
32	生殖器系	生殖器系の構造① 産業動物
33	生殖器系	春期発動 性周期（イヌ、ネコ、産業動物）、妊娠期間（イヌ、ネコ、産業動物）
34	神経系	神経細胞と支持細胞について
35	神経系	神経系の分類と構造（中枢神経、末梢神経）①

36	神経系	神経系の分類と構造（中枢神経、末梢神経）② 神経伝達の仕組みについて神経伝達物質）
37	内分泌系	内分泌と外分泌の違い 全身の内分泌腺について理解する
38	内分泌系	内分泌と外分泌の違い 全身の内分泌腺について理解する
39	内分泌系	ホルモンの生理作用①
40	内分泌系	ホルモンの生理作用②
41	内分泌系	ホルモンの生理作用③、ホルモンの分泌調節 犬
42	感覚器系	様々な感覚 （感覚の分類、感覚と受容器、動物による感じ方の違い）
43	感覚器系	特殊感覚 （視覚）
44	感覚器系	特殊感覚（聴覚、平衡感覚、嗅覚）
45	感覚器系	特殊感覚（聴覚、平衡感覚、嗅覚）

科目	動物形態機能学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	30	授業回数	15
担 当 教 員		廣 田 典 子			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	講義
学 習 目 標		解剖学及び生理学の基礎を復習し生命体としての動物を理解。動物体の構造と機能について復習する。特にイヌやネコの解剖学及び生理学を理解することを旨とする。その他の動物についてもイヌやネコと比較しながら学ぶ。					
使 用 教 材		犬と猫の体の仕組み					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ ー マ		内 容				
1	体を構成する要素		動物細胞の階層（器官、組織、細胞について復習する。				
2	運動器系（骨格、筋肉）		関節の構造、種類、名称を復習。 骨格（軸骨格、付属肢骨格、内臓骨格）を復習。				
3	運動器系（骨格、筋肉）		動物種による歩行様式の違いを復習する。筋肉の種類とつくりを知る。筋肉の収縮のメカニズムを復習する。				
4	消化器系		歯の構造を知る（動物種による違いを学ぶ）。嚥下の仕組みについて学ぶ。				
5	消化器系		消化に関わる器官の機能（栄養素を体に取り込む仕組み、動物種による違い）、肝臓の機能				
6	循環器系		心臓の興奮と伝達。心臓の収縮。心電図について復習する。循環器系の構成を復習する。（体循環、肺循環、門脈、循環）。血管の構造を復習する（動脈、静脈、毛細血管）				
7	血液		血液の組成（細胞成分）、血液凝固				
8	免疫		移行抗体の胎盤移行性について。 リンパ性付属器官				
9	呼吸器系		呼吸器の機能、組織でのガス交換、酸素解離曲線				
10	泌尿器系		泌尿器系の機能 体液調整と尿生成ついて。腎臓から分泌される生理活性物質について復習。				
11	生殖器系		春期発動 性周期（イヌ、ネコ、産業動物）、妊娠期間（イヌ、ネコ、産業動物）を復習				
12	神経系		神経系の分類と構造（中枢神経、末梢神経） 神経伝達の仕組みについて（神経伝達物質）				
13	内分泌系		内分泌と外分泌の違い 全身の内分泌腺について理解する				
14	内分泌系		ホルモンの生理作用、ホルモンの分泌調節				
15	感覚器系		様々な感覚（感覚の分類、感覚と受容器、動物による感じ方の違い）、特殊感覚（聴覚、平衡感覚、嗅覚）				

科目	動物繁殖学	学科/学年	動物看護科 1年	時間数	24	授業回数	12
担 当 教 員		林 茂			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	講義
学 習 目 標		雌雄の生殖器の構造を理解したうえで、犬と猫の雌の発情・妊娠・分娩などの繁殖についての過程を学び、生殖器疾患と新生子疾患の疾患名について学習する。また、看護のポイントについてもしっかりと理解することを目的とする。					
使 用 教 材		絵で見る解剖学・動物看護の実践					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ ー マ		内 容				
1	生殖器の構造		雌雄別、動物種別に生殖器の構造を理解する①				
2	生殖器の構造		雌雄別、動物種別に生殖器の構造を理解する②				
3	生殖機能のホルモン支配		生殖系ホルモンの主な生理作用を理解する				
4	生殖機能のホルモン支配		性成熟と生殖周期（ライフサイクル、季節周期）を理解する				
5	繁殖生理		①雌犬、雌猫の繁殖生理について				
6	繁殖生理		②雌犬、雌猫の繁殖生理について				
7	妊娠・分娩		交配、妊娠～分娩、新生子の管理までの流れを理解する①				
8	妊娠・分娩		交配、妊娠～分娩、新生子の管理までの流れを理解する②				
9	繁殖障害		①妊娠期および産後の異常				
10	繁殖障害		①雌の繁殖障害について②雄の繁殖障害について				
11	X線①		基本的X線知識を理解する。レントゲン撮影時の保定法、アナログフィルムの取扱法、現像法、基礎的読影法を理解する				
12	X線②		基本的X線知識を理解する。レントゲン撮影時の保定法、アナログフィルムの取扱法、現像法、基礎的読影法を理解する				

科目	動物繁殖学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	6	授業回数	3
担 当 教 員	林 茂			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	講義	
学 習 目 標	雌雄の生殖器の構造を理解したうえで、犬と猫の雌の発情・妊娠・分娩などの繁殖についての過程を学び、生殖器疾患と新生子疾患の疾患名について学習する。また、看護のポイントについてもしっかりと理解することを目的とする。						
使 用 教 材	小動物繁殖学・動物看護の実践・超音波診断法（ビデオ）						
評 価 基 準	試験・授業態度・提出物						
	テ ー マ		内 容				
1	妊娠学①		動物の妊娠・出産について理解する。膣スメアを観察しての犬の発情診断、精液を実際に採取し顕微鏡でその形態を観察、実際の交尾、出産をオリジナル動画によって学習する				
2	妊娠学②		動物の妊娠・出産について理解する。膣スメアを観察しての犬の発情診断、精液を実際に採取し顕微鏡でその形態を観察、実際の交尾、出産をオリジナル動画によって学習する				
3	生殖機能のホルモン支配		早期妊娠診断ツールである超音波画像診断装置の基礎を理解する。フルーツゼリーを用いてエコー画像の基礎を理解した後に実際に動物にエコーを当て、どのような画像を得られるか理解する。				

科目	動物病理学	学科/学年	動物看護科 1年	時間数	30	授業回数	15
担 当 教 員		林 茂			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	講義
学 習 目 標		◇学習目標：細胞の損傷、基本病変、免疫異常、浮腫、腫瘍について理解する ◆到達目標：①細胞の損傷及び老化を理解できる②基本的な病変（循環障害、退行性変化、炎症、進行性変化）のメカニズムを理解できる③免疫異常のメカニズムを理解できる④腫瘍の発生と分類を理解できる					
使 用 教 材		パワーポイントスライド					
評 価 基 準		試験・授業態度					
	テ ー マ		内 容				
1	病理概論		病理学とは何か				
2	病理概論		病気の変遷①				
3	病理学の言葉の定義		病理学で用いられる言葉の定義①				
4	壊死、循環障害		壊死とは何か				
5	壊死、循環障害		循環障害とは何か				
6	壊死、循環障害		壊死の復習、循環障害の復習				
7	血栓、アポトーシス、老化、ショック		血栓の形成とはなにか				
8	血栓、アポトーシス、老化、ショック		アポトーシスとはなにか				
9	血栓、アポトーシス、老化、ショック		老化とはなにか				
10	血栓、アポトーシス、老化、ショック		ショックとはなにか				
11	免疫、アレルギー		免疫とアレルギーについて①				
12	免疫、アレルギー		免疫とアレルギーについて②				
13	感染病理、環境疾患		感染症の経過、環境の影響による疾患について①				
14	感染病理、環境疾患		感染症の経過、環境の影響による疾患について②				
15	腫瘍		腫瘍について				

科目	動物薬理学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	60	授業回数	30
担当教員	廣田典子			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	講義	
学習目標	1.薬理学とは何か、薬物治療の目的は何か学習する 2.薬理作用とその発現機構、作用の強さ、有害作用について学習する 3.薬物の剤形と投与方法について、その特徴を理解する 4.各種の薬物について、作用機序や種類を学習する						
使用教材	動物看護コアテキスト3（動物薬理学）ファームプレス						
評価基準	試験・授業態度・提出物						
	テーマ		内 容				
1	薬理学総論		1.薬理学とは何か学習し、現場で活用できる知識を身につけることを意識づける 2.薬物の取り扱いについて学習する 3.医薬品の分類と法規について学習し理解する				
2	薬理学総論		1.薬理学とは何か学習し、現場で活用できる知識を身につけることを意識づける 2.薬物の取り扱いについて学習する 3.医薬品の分類と法規について学習し理解する				
3	薬理学の基礎		1.薬理作用とその発現機構について学習し、理解する 2.薬物の作用点と受容体について学習し、理解する				
4	薬理学の基礎		1.薬理作用とその発現機構について学習し、理解する 2.薬物の作用点と受容体について学習し、理解する				
5	薬理学の基礎		1.生体内での薬物の動態について学習し、理解する 2.薬用量の計算を学習し、正確に応用できるよう習得する 3.薬物の代謝について学習し、理解する				
6	薬理学の基礎		1.生体内での薬物の動態について学習し、理解する 2.薬用量の計算を学習し、正確に応用できるよう習得する 3.薬物の代謝について学習し、理解する				
7	薬理学各論 麻酔薬、注射麻酔薬		1.神経系に作用する薬について学習する(1)①注射麻酔薬の種類について学習する②吸入麻酔薬の作用について学習し、理解する③吸入麻酔の種類について学習し、理解する				
8	薬理学各論 吸入麻酔薬、局所麻酔薬		1.神経系に作用する薬について学習する(2)①吸入麻酔の種類について学習し、理解する②局所麻酔薬の作用について学習する③局所麻酔薬の種類について学習し、理解する				
9	薬理学各論 鎮静薬、抗けいれん薬		1.神経系に作用する薬について学習する(3)①鎮静薬、抗けいれん薬の作用について学習し、理解する②鎮静薬、抗けいれんの種類について学習する				
10	薬理学各論 呼吸器系に作用する薬		1.呼吸器に作用する薬について学習する①呼吸興奮薬について学習する②鎮咳薬、去痰薬、気管拡張薬について学習し、理解する				
11	薬理学各論 呼吸器系に作用する薬		1.呼吸器に作用する薬について学習する①呼吸興奮薬について学習する②鎮咳薬、去痰薬、気管拡張薬について学習し、理解する				
12	薬理学各論 循環器に作用する薬物		1.循環器に作用する薬について学習する①血管拡張作用のしくみについて学習し、理解する②血管拡張薬の種類について学習する③心不全治療薬、抗不整脈薬について学習し、理解する				
13	薬理学各論 循環器に作用する薬物		1.循環器に作用する薬について学習する①血管拡張作用のしくみについて学習し、理解する②血管拡張薬の種類について学習する③心不全治療薬、抗不整脈薬について学習し、理解する				
14	薬理学各論 ミニテスト		1.ここまでの授業について復習、疑問点を確認する 2.小テスト				
15	薬理学各論 泌尿器系に作用する薬物		1.泌尿器に作用する薬について学習する①腎機能について復習する②利尿薬について学習し、理解する③利尿薬以外の泌尿器に作用する薬物の種類と作用機序について学習し、理解する				

16	薬理学各論 泌尿器系に作用する薬物	1. 泌尿器に作用する薬について学習する①腎機能について復習する②利尿薬について学習し、理解する③利尿薬以外の泌尿器に作用する薬物の種類と作用機序について学習し、理解する
17	薬理学各論 消化器系に作用する薬物	1. 消化器に作用する薬について学習する①嘔吐の機序と制吐薬について学習し、理解する②胃酸分泌について学習する③潰瘍治療薬の作用機序と種類を学習し、理解する 2. その他消化器に作用する薬について学習する①止瀉薬について学習し、理解する②下剤について学習する
18	薬理学各論 消化器系に作用する薬物	1. 消化器に作用する薬について学習する①嘔吐の機序と制吐薬について学習し、理解する②胃酸分泌について学習する③潰瘍治療薬の作用機序と種類を学習し、理解する 2. その他消化器に作用する薬について学習する①止瀉薬について学習し、理解する②下剤について学習する
19	薬理学各論 消化器系に作用する薬物	1. 消化管運動について学習する 2. 消化管に作用する薬、止瀉・瀉下薬について学習し、理解する 3. 肝疾患の薬について学習し、理解する 4. 胆汁について復習する 5. 胆道疾患の治療薬について学習し、理解する
20	薬理学各論 消化器系に作用する薬物	1. 消化管運動について学習する 2. 消化管に作用する薬、止瀉・瀉下薬について学習し、理解する 3. 肝疾患の薬について学習し、理解する 4. 胆汁について復習する 5. 胆道疾患の治療薬について学習し、理解する
21	薬理学各論 オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	1. オータコイドについて学習する①オータコイドとは何か理解する②ヒスタミンの生理作用と抗ヒスタミン薬について学習する③セロトニンの生理作用とセロトニン作動薬、拮抗薬について学習する④ブラジキニンについて学習する 2. 糖尿病の治療薬について学習する①インスリンの分泌調節と生理作用について復習する②糖尿病について学習する③糖尿病治療薬について学習する
22	薬理学各論 オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	1. オータコイドについて学習する①オータコイドとは何か理解する②ヒスタミンの生理作用と抗ヒスタミン薬について学習する③セロトニンの生理作用とセロトニン作動薬、拮抗薬について学習する④ブラジキニンについて学習する 2. 糖尿病の治療薬について学習する①インスリンの分泌調節と生理作用について復習する②糖尿病について学習する③糖尿病治療薬について学習する
23	薬理学各論 代謝・内分泌系の薬物	1. 甲状腺障害の治療薬について学習する①甲状腺の機能について復習する②甲状腺障害について犬、猫の違いを学習し、その治療薬について学習する 2. ステロイドホルモンと抗炎症薬について学習する①ステロイドホルモンの分泌調節、生理作用について復習する②抗炎症薬としての作用を学習する
24	薬理学各論 代謝・内分泌系の薬物	1. 甲状腺障害の治療薬について学習する①甲状腺の機能について復習する②甲状腺障害について犬、猫の違いを学習し、その治療薬について学習する 2. ステロイドホルモンと抗炎症薬について学習する①ステロイドホルモンの分泌調節、生理作用について復習する②抗炎症薬としての作用を学習する
25	薬理学各論 抗炎症薬	1. 抗炎症薬について学習する①炎症について理解する②抗炎症薬の作用機序と種類について学習する③臨床現場で利用されている薬剤について学習する
26	薬理学各論 抗炎症薬	1. 抗炎症薬について学習する①炎症について理解する②抗炎症薬の作用機序と種類について学習する③臨床現場で利用されている薬剤について学習する
27	薬理学各論 血液に作用する薬物	1. 抗貧血薬、血液凝固抑制薬、血液凝固促進薬について学習する 2. 免疫抑制薬について学習する化学療法薬について学習する①消毒薬、殺虫薬、抗菌薬について、作用機序や効果、臨床での利用などを学習し、理解する
28	薬理学各論 血液に作用する薬物	1. 抗貧血薬、血液凝固抑制薬、血液凝固促進薬について学習する 2. 免疫抑制薬について学習する化学療法薬について学習する①消毒薬、殺虫薬、抗菌薬について、作用機序や効果、臨床での利用などを学習し、理解する
29	薬理学各論 血液に作用する薬物	1. 抗貧血薬、血液凝固抑制薬、血液凝固促進薬について学習する 2. 免疫抑制薬について学習する化学療法薬について学習する①消毒薬、殺虫薬、抗菌薬について、作用機序や効果、臨床での利用などを学習し、理解する
30	薬理学各論 ミニテスト	1. ここまでの授業について復習、疑問点を確認する 2. 小テスト

科目	動物感染症学	学科/学年	動物看護科 1年	時間数	60	授業回数	30
担当教員		廣田典子			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	講義
学習目標		寄生虫学総論では、寄生虫学の基礎を理解する。寄生虫学各論では、小動物に関係する寄生虫を中心に学習する。産業動物の寄生虫は、地域性なども配慮し国内に発生する寄生虫について学習する。人獣共通寄生虫症について学習し、動物看護師として深く理解する。					
使用教材		動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門基礎分野 動物寄生虫学 インターズー					
評価基準		試験・授業態度・提出物					
	テーマ		内 容				
1	寄生虫学総論		1.寄生虫の種類について学習する。 2.寄生虫用語を理解し、説明できるようにする。				
2	寄生虫学総論		1.寄生虫用語を理解し、説明できるようにする。 2.寄生虫の生活環について学習する。				
3	寄生虫学総論		1.寄生虫用語を理解し、説明できるようにする。 2.寄生虫の生活環について学習する。				
4	内部寄生虫 原虫類		1.寄生虫の生活環について寄生虫の種類による違いを学習する。 2.原虫類の生活環について、説明できるようにする。				
5	内部寄生虫 原虫類		1.寄生虫の生活環について寄生虫の種類による違いを学習する。 2.原虫類の生活環について、説明できるようにする。				
6	内部寄生虫 原虫類		1.原虫類の鞭毛虫類について学習する。 ①赤痢アメーバについて学習する。				
7	内部寄生虫 原虫類		1.原虫類の鞭毛虫類について学習する。 ①赤痢アメーバについて学習する。				
8	内部寄生虫 原虫類		1.原虫類の鞭毛虫類について学習する。①ジアルジアについて生活環、症状学習する。②ジアルジアの治療、予防法について学習し、発生時の対策について理解する。				
9	内部寄生虫 原虫類		1.原虫類の鞭毛虫類について学習する。①ジアルジアについて生活環、症状学習する。②ジアルジアの治療、予防法について学習し、発生時の対策について理解する。				
10	内部寄生虫 原虫類		1.原虫類の胞子虫類について学習する。①コクシジウム類について学習する。 ②生活環、病原性、症状について学習する。				
11	内部寄生虫 原虫類		1.原虫類の胞子虫類について学習する。①コクシジウム類について学習する。 ②生活環、病原性、症状について学習する。				
12	内部寄生虫 原虫類		1.原虫類の胞子虫類について学習する。①コクシジウム類について学習する。 ②生活環、病原性、症状について学習する。③治療、予防法について学習				
13	内部寄生虫 原虫類		1.原虫類の胞子虫類について学習する。①コクシジウム類について学習する。 ②生活環、病原性、症状について学習する。③治療、予防法について学習				
14	内部寄生虫 原虫類、線虫類		1.原虫類小テスト解答 2.線虫類について、特徴、生活環を学習する。				
15	内部寄生虫 原虫類、線虫類		1.線虫類について、特徴、生活環を学習する。①回虫類について学習する。②犬回虫の生活環を理解し、説明できるようにする。				

16	内部寄生虫 原虫類、線虫類	1.線虫類について、特徴、生活環を学習する。①回虫類について学習する。②犬回虫の生活環を理解し、説明できるようにする。
17	内部寄生虫学 線虫類	1.回虫類の種類を学習し、種類による違いを理解する。 2.蟯虫について、生活環、症状、治療、検査法について学習する。
18	内部寄生虫学 線虫類	1.回虫類の種類を学習し、種類による違いを理解する。 2.蟯虫について、生活環、症状、治療、検査法について学習する。
19	内部寄生虫学 線虫類	1.回虫類の種類を学習し、種類による違いを理解する。 2.鉤虫類について学習する。
20	内部寄生虫学 線虫類	1.回虫類の種類を学習し、種類による違いを理解する。 2.鉤虫類について学習する。
21	内部寄生虫学 線虫類	1.糞線虫類について、生活環、症状、治療、予防法などについて学習する。
22	内部寄生虫学 線虫類	1.糞線虫類について、生活環、症状、治療、予防法などについて学習する。
23	内部寄生虫学 線虫類	1.天糸状虫の生活環、症状、治療、予防法について学習する。 2.東洋眼虫、鞭虫、旋毛虫について生活環、症状、治療、予防法などを学習する。
24	内部寄生虫学 線虫類	1.天糸状虫の生活環、症状、治療、予防法について学習する。 2.東洋眼虫、鞭虫、旋毛虫について生活環、症状、治療、予防法などを学習する。
25	内部寄生虫学	1.原虫類、線虫類について復習し、理解しなおす。
26	内部寄生虫学	1.原虫類、線虫類について復習し、理解しなおす。 2.小テスト
27	内部寄生虫学	1.小テスト解答
28	内部寄生虫学	1.吸虫類の特徴について学習する。 2.吸虫類の種類と生活環について学習する
29	内部寄生虫学	1.吸虫類の特徴について学習する。 2.吸虫類の種類と生活環について学習する
30	内部寄生虫学	1.中間宿主と終宿主を覚える。 2.壺型吸虫について学習する。

科目	動物感染症学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	30	授業回数	15
担 当 教 員		廣 田 典 子			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	講義
学 習 目 標		寄生虫学総論では、寄生虫学の基礎を理解する。寄生虫学各論では、小動物に関係する寄生虫を中心に学習する。産業動物の寄生虫は、地域性なども配慮し国内に発生する寄生虫について学習する。人獣共通寄生虫症について学習し、動物看護師として深く理解する。					
使 用 教 材		動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門基礎分野 動物寄生虫学 インターズー					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ ー マ		内 容				
1	内部寄生虫学		1.中間宿主と終宿主を覚える。 2.壺型吸虫について学習する。				
2	内部寄生虫学		1.条虫類総論 ①条虫類について特徴を学習する。				
3	内部寄生虫学		1.条虫類総論 ①条虫類の種類、生活環について学習する。				
4	内部寄生虫学		1.条虫類について生活環、症状、治療、予防法などを学習する。 ①マンソン裂頭条虫 ②瓜実条虫				
5	内部寄生虫学		1.条虫類について生活環、症状、治療、予防法などを学習する。 ①マンソン裂頭条虫 ②瓜実条虫				
6	内部寄生虫学		1.条虫類について生活環、症状、治療、予防法などを学習する。 ①多包条虫 ②猫条虫				
7	内部寄生虫学		1.条虫類について生活環、症状、治療、予防法などを学習する。 ①多包条虫 ②猫条虫 2.ヒトの条虫について学ぶ				
8	内部寄生虫学		1.吸虫類、条虫類のまとめ 小テスト				
9	外部寄生虫学		1.外部寄生虫総論 2.外部寄生虫各論①マダニ				
10	外部寄生虫学		1.外部寄生虫総論 2.外部寄生虫各論①マダニ				
11	外部寄生虫学		1.外部寄生虫各論①中気門類②ツメダニ③ヒゼンダニ類 ④シラミ、ハジラミ類⑤ノミ類				
12	外部寄生虫学		1.外部寄生虫各論①中気門類②ツメダニ③ヒゼンダニ類 ④シラミ、ハジラミ類⑤ノミ類				
13	寄生虫学 検査法		1.寄生虫学検査法について				
14	寄生虫学 検査法		1.寄生虫学検査法について				
15	寄生虫学 まとめ		小テスト				

科目	動物看護学概論	学科/学年	動物看護科 1年	時間数	30	授業回数	15
担 当 教 員		若 山 明 子			実務経験 □有 □無	授業形態	講義
学 習 目 標		1.動物看護とは何かを学ぶ 2.動物看護の対象と目的について理解する 3.動物看護者の倫理綱領について理解する 4.動物看護過程について理解する 5.QOLについて理解する 6.死の看取りに必要な技術を学ぶ					
使 用 教 材		動物看護コアテキスト 動物看護の基礎 5					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ ー マ		内 容				
1	動物看護学概論		1.動物看護の歴史と定義				
2	動物看護学概論		1.動物看護の歴史と定義				
3	動物看護学概論		1.動物看護の歴史と定義				
4	動物看護学概論		1.動物看護の歴史と定義				
5	動物看護学概論		1.動物看護の対象と目的				
6	動物看護学概論		1.動物看護の対象と目的				
7	動物看護学概論		1.動物看護の対象と目的				
8	動物看護師の倫理		1.生活ステージにおける動物看護師の役割 2.動物看護者の倫理綱領				
9	動物看護師の倫理		1.生活ステージにおける動物看護師の役割 2.動物看護者の倫理綱領				
10	動物看護師の倫理		1.生活ステージにおける動物看護師の役割 2.動物看護者の倫理綱領				
11	動物看護師の倫理		1.動物看護者の倫理綱領				
12	動物看護師の倫理		1.動物看護者の倫理綱領				
13	動物看護師の倫理		1.動物看護者の倫理綱領				
14	終末期患者動物の看護		1.ペットロス 2.死後の取り扱い				
15	終末期患者動物の看護		1.ペットロス 2.死後の取り扱い				

科目	動物看護学概論	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	30	授業回数	15
担 当 教 員		若山明子・濱本大気			実務経験 □有 ☒ 無	授業形態	講義
学 習 目 標		1.動物看護とは何かを学ぶ 2.動物看護の対象と目的について理解する 3.動物看護者の倫理綱領について理解する 4.動物看護過程について理解する 5.QOLについて理解する 6.死の看取りに必要な技術を学ぶ					
使 用 教 材		動物看護コアテキスト 動物看護の基礎 5					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ マ		内				

科目	動物医療関連法規	学科/学年	動物看護科 1年	時間数	30	授業回数	15
担 当 教 員		工 藤 公 康			実務経験 □有 ☒ 無	授業形態	講義
学 習 目 標		動物看護師が行う獣医療関連業務とそれを取り巻く法律の仕組みを基礎から理解し獣医療現場および環境関連、動物関連の法律について理解を深める。					
使 用 教 材		愛玩動物飼養管理士 第1巻					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ マ		内				

科目	動物公衆衛生学	学科/学年	動物看護科 1年	時間数	20	授業回数	10
担 当 教 員		廣 田 典 子			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	講義
学 習 目 標		1.公衆衛生とは何か学ぶ 2.滅菌法、消毒法についてを学び、感染予防について理解する 3.犬、猫が関係する人獣共通感染症について学ぶ 4.免疫機構を理解し、犬、猫の感染症のワクチンについて学ぶ 5.動物の衛生に関する法律を学び、感染症の防疫について理解する					
使 用 教 材		動物看護コアカリキュラム3 動物の疾病と予防および回復 ファームプレス					
評 価 基 準		試験・授業態度					
	テ ー マ		内 容				
1	公衆衛生の目的		1.公衆衛生の目的について学ぶ 2.人獣共通感染症、新興感染症、再興感染症とは何か言えるようになる 3.感染症法について学ぶ				
2	公衆衛生の目的		1.公衆衛生の目的について学ぶ 2.人獣共通感染症、新興感染症、再興感染症とは何か言えるようになる 3.感染症法について学ぶ				
3	公衆衛生の目的		1.公衆衛生の目的について学ぶ 2.人獣共通感染症、新興感染症、再興感染症とは何か言えるようになる 3.感染症法について学ぶ				
4	感染症の管理		1.感染症の管理について学ぶ(1) ①感染症の制御と感染成立3要素との関係を理解する②院内感染について学ぶ③予防ワクチンについて学ぶ④免疫について理解し直す				
5	感染症の管理		1.感染症の管理について学ぶ(1) ①感染症の制御と感染成立3要素との関係を理解する②院内感染について学ぶ③予防ワクチンについて学ぶ④免疫について理解し直す				
6	感染症の管理		1.感染症の管理について学ぶ(2) ①滅菌と消毒の違いを理解する②滅菌法の特徴について学ぶ③それぞれの滅菌法に適応する対象物を理解する				
7	感染症の管理		1.感染症の管理について学ぶ(2) ①滅菌と消毒の違いを理解する②滅菌法の特徴について学ぶ③それぞれの滅菌法に適応する対象物を理解する				
8	感染症の管理		1.感染症の管理について学ぶ(3) ①消毒法の特徴について学ぶ②それぞれの消毒法に適応する対象物を理解する				
9	感染症の管理		1.感染症の管理について学ぶ(3) ①消毒法の特徴について学ぶ②それぞれの消毒法に適応する対象物を理解する				
10	感染症の管理		1.感染症の管理について学ぶ(3) ①消毒法の特徴について学ぶ②それぞれの消毒法に適応する対象物を理解する				

科目	動物公衆衛生学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	40	授業回数	20
担 当 教 員		廣 田 典 子			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	講義
学 習 目 標		1.公衆衛生とは何か学ぶ 2.滅菌法、消毒法についてを学び、感染予防について理解する 3.犬、猫が関係する人獣共通感染症について学ぶ 4.免疫機構を理解し、犬、猫の感染症のワクチンについて学ぶ 5.動物の衛生に関する法律を学び、感染症の防疫について理解する					
使 用 教 材		動物看護コアカリキュラム3 動物の疾病と予防および回復 ファームプレス					
評 価 基 準		試験・授業態度					
	テ ー マ		内 容				
1	感染症の管理		1.感染症の管理について学ぶ(4) ①消毒法の特徴について学ぶ ②それぞれの消毒法に適應する対象物を理解する				
2	感染症の管理		1.感染症の管理について学ぶ(5) ①それぞれの消毒法に適應する対象物を理解する				
3	感染症の管理		1.感染症の管理について学ぶ(5) ①それぞれの消毒法に適應する対象物を理解する				
4	人獣共通感染症		2.滅菌法、消毒法に関する小テスト 1.公衆衛生の目的について学ぶ 2.人獣共通感染症、新興感染症、再興感染症とは何か言えるようになる 3.感染症法について学ぶ 4.細菌による人獣共通感染症について学ぶ				
5	人獣共通感染症		1.公衆衛生の目的について学ぶ 2.人獣共通感染症、新興感染症、再興感染症とは何か言えるようになる 3.感染症法について学ぶ 4.細菌による人獣共通感染症について学ぶ				
6	主な細菌		1.主な細菌感染症について学ぶ①サルモネラ感染症②緑膿菌感染症③パストツレラ症④レプトスピラ症⑤ブルセラ症⑥歯周病⑦ボルデテラ症⑧ライム病⑨カンピロバクター症⑩破傷風⑪結核 2.細菌による人獣共通感染症について学ぶ				
7	主な細菌		1.主な細菌感染症について学ぶ①サルモネラ感染症②緑膿菌感染症③パストツレラ症④レプトスピラ症⑤ブルセラ症⑥歯周病⑦ボルデテラ症⑧ライム病⑨カンピロバクター症⑩破傷風⑪結核 2.細菌による人獣共通感染症について学ぶ				
8	特殊細菌		1.特殊細菌による感染症①マイコプラズマ感染②猫のクラミジア症③鳥クラミジア症④犬のリケッチア感染症 2.特殊細菌による人獣共通感染症について学ぶ				
9	特殊細菌		1.特殊細菌による感染症①マイコプラズマ感染②猫のクラミジア症③鳥クラミジア症④犬のリケッチア感染症 2.特殊細菌による人獣共通感染症について学ぶ				
10	真菌感染		1.犬・猫の主な真菌感染症①皮膚糸状菌症②マラセチア症③クリプトコッカス症 2.真菌による人獣共通感染症について学ぶ				
11	真菌感染		1.犬・猫の主な真菌感染症①皮膚糸状菌症②マラセチア症③クリプトコッカス症 2.真菌による人獣共通感染症について学ぶ				
12	細菌、真菌まとめ		1.細菌、特殊細菌、真菌感染症のまとめ				
13	細菌、真菌まとめ		1.細菌、特殊細菌、真菌感染症のまとめ 2.小テスト				
14	ウィルス感染		1.主なウィルス感染症について学ぶ				

15	ウイルス感染	1.主なウイルス感染症について学ぶ
16	ウイルス感染	1.ウイルスによる人獣共通感染症について学ぶ
17	ウイルス感染	1.ウイルスによる人獣共通感染症について学ぶ
18	人獣共通感染症	1.人獣共通感染症について復習する
19	人獣共通感染症	1.人獣共通感染症について復習する
20	公衆衛生学	1.公衆衛生学 小テスト

科目	動物人間関係学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	30	授業回数	15
担 当 教 員		工 藤 公 康			実務経験 □有 □無	授業形態	講義
学 習 目 標		動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理的および社会位学的側面から理解する。					
使 用 教 材		愛玩動物飼養管理士教本					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ ー マ		内 容				
1	人間と動物の関わり		現在の日本愛玩動物協会に至る流れがどのような仕組みで協会が成り立っているのかを知り、動物愛護に対して考えてみる。また、飼養管理士資格の重要性や求められているものを理解し、資格取得者の立場を把握する				
2	動物愛護論（歴史）①		日本人の動物観と西洋人の動物観の違いや、動物愛護の考えがどのように変化していったかを学習する				
3	動物愛護論（歴史）②		日本人の動物観と西洋人の動物観の違いや、動物愛護の考えがどのように変化していったかを学習する				
4	人と動物の関係学 動物関係法令		多種多様な動物種と人間が共生していく上でのメリット、デメリットを認識したうえで動物に関わる関係法令の制定に至る過程を学習する。また、子供の教育における動物飼養の効果についても学習する				
5	動物の愛護及び管理に関する法律の関係法令 体系と法律の制定及び改正の経緯		人と動物の関係の変化に対応してきた法律の制定から改正に至る経緯を学習し、分野ごとに定められる基準や細目ごとにそれぞれの対象動物の仕分け、内容の学習				
6	動物の介在活動・動物介在療法・動物介在教育		動物との接触が人間に与える身体的・心理的影響を理解する。				
7	動物の介在活動・動物介在療法・動物介在教育		動物介在活動の目的と内容について理解する。				
8	動物の介在活動・動物介在療法・動物介在教育		動物介在活動の目的と内容について理解する。				
9	動物の介在活動・動物介在療法・動物介在教育		動物介在活動の目的と内容について理解する。				
10	使役動物		使役動物の歴史と福祉について理解する。				
11	使役動物		補助犬の定義、歴史を理解する。				
12	使役動物		補助犬の育成過程や適正について理解する。				
13	伴侶動物の飼育		伴侶動物飼育の現状を理解する。				
14	伴侶動物の飼育		伴侶動物飼育によって人間が受けた恩恵と問題点を理解する。				
15	伴侶動物の飼育		伴侶動物の適正飼育を推進するために必要な手段を理解する。				

科目	動物福祉・倫理	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	30	授業回数	15
担 当 教 員		今 木 康 彦			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	講義
学 習 目 標		動物愛護や動物福祉（アニマルウェルフェア）およびその基礎となる生命倫理の考え方について学ぶ。					
使 用 教 材		配布資料					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ マ		内				

科目	動物行動学	学科/学年	動物看護科 1 年	時間数	34	授業回数	17
担 当 教 員		小 田 健 郎			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	演習
学 習 目 標		イヌやネコの発生起源、種類による特徴を理解し基本的行動から適正飼育、しつけ方法などを理解し動物の看護と飼い主指導に活かす。					
使 用 教 材		配布資料					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ ー マ		内 容				
1	動物行動学の基礎		動物行動学とは何か、動物行動学の基礎、歴史を学ぶ				
2	犬の進化と家畜化①		犬と人とはいつ頃から付き合いがあるのか。また、家畜化によってどのように変化したのか。 家畜化していく上で作出された犬種について学ぶ				
3	猫の進化と家畜化①		リビアヤマネコがどのようにしてイエネコになったのか。家畜化していく理由などについて学ぶ				
4	犬の発達行動学①		犬の発達行動を継続的に学ぶ。とくになぜ社会化期が重要なのかを学ぶ 発達行動に影響を与える遺伝的な因子について学ぶ				
5	犬の発達行動学②		発達行動に影響を与える環境の因子について学ぶ 犬の感覚について学ぶ				
6	犬のコミュニケーション行動①		犬のコミュニケーション行動を理解する。				
7	犬のコミュニケーション行動②		犬の表情、ボディランゲージを理解する。				
8	猫の発達行動学①		猫の発達行動を継続的に学ぶ 猫の発達行動を摂食行動、捕食行動から学ぶ				
9	犬の社会的行動①		他のイヌ科動物や野犬の社会行動から犬について考える。				
10	犬の社会的行動②		犬の視覚、嗅覚、発声、触覚によるコミュニケーションについて学ぶ				
11	犬の社会的行動③		犬の繁殖行動について学ぶ				
12	犬の社会的行動④		犬と人との関係について学ぶ				
13	猫の社会的行動①		単独で暮らすイエネコが集団でもくらせる理由を学ぶ 猫同士の社会的相互作用について学ぶ				
14	猫の社会的行動②		猫の視覚、発声によるコミュニケーションについて学ぶ				
15	猫の社会的行動③		猫の嗅覚によるコミュニケーションを学ぶ				
16	猫の社会的行動④		猫の繁殖行動について学ぶ				
17	猫のコミュニケーション行動①		猫のコミュニケーション行動を理解する。				

科目	動物行動学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	10	授業回数	5
担 当 教 員		小 田 健 郎			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	演習
学 習 目 標		イヌやネコの発生起源、種類による特徴を理解し基本的行動から適正飼育、しつけ方法などを理解し動物の看護と飼い主指導に活かす。					
使 用 教 材		配布資料					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ ー マ		内 容				
1	動物行動学の基礎①		動物行動学とは何か、動物行動学の基礎、歴史を学ぶ				
2	動物行動学の基礎②		動物行動学とは何か、動物行動学の基礎、歴史を学ぶ				
3	犬の進化と家畜化①		犬と人とはいつ頃から付き合いがあるのか。また、家畜化によってどのように変化したのか。 家畜化していく上で作出された犬種について学ぶ				
4	猫の進化と家畜化①		リビアヤマネコがどのようにしてイエネコになったのか。家畜化していく理由などについて学ぶ				
5	猫のコミュニケーション行動①		猫のコミュニケーション行動を理解する。				

科目	伴侶動物学	学科/学年	動物看護科 1年	時間数	60	授業回数	30
担 当 教 員	廣田典子・片桐麻里奈			実務経験 ☒ 有 ☐ 無	授業形態	講義	
担 当 教 員	工藤公康・鎌田絵里・若山明子			実務経験 ☐ 有 ☒ 無	授業形態	講義	
学 習 目 標	愛玩動物として飼育されている犬や猫をはじめ、ウサギ、ハムスター、小鳥や両生類などの生態や飼育方法を学ぶ。動物福祉をふまえた飼育管理方法を理解することを目標とする。						
使 用 教 材	愛玩動物飼養管理士教本						
評 価 基 準	試験・授業態度・提出物						
	テ　　ー　　マ		内　　　　　　容				
1	小動物の飼育法①		ペットとショップでよく見る小動物の飼育・管理方法について学習する				
2	小動物の飼育法②		ペットとショップでよく見る小動物の飼育・管理方法について学習する				
3	小動物の飼育法③		ペットとショップでよく見る小動物の飼育・管理方法について学習する				
4	動物の疾病とその予防①		感染症の病原体と予防の基礎知識について学習する				
5	動物の疾病とその予防②		犬・猫の疾病とその予防について学習する				
6	動物の疾病とその予防③		犬・猫の疾病とその予防について学習する				
7	動物の行動と社会①		行動とは何か、社会とは何か。行動の進化。行動と社会の生態学的側面				
8	動物の行動と社会②		行動とは何か、社会とは何か。行動の進化。行動と社会の生態学的側面				
9	動物の行動と社会③		犬と猫の行動と社会。犬と猫のコミュニケーション。問題行動とその予防と対策				
10	動物の遺伝①		DNA、遺伝法則、遺伝に関連した疾患などを学習する				
11	動物の遺伝②		DNA、遺伝法則、遺伝に関連した疾患などを学習する				
12	動物の繁殖整理①		犬猫、その他の哺乳類、鳥類の繁殖整理を学習する				
13	動物の繁殖整理②		犬猫、その他の哺乳類、鳥類の繁殖整理を学習する				
14	ウサギとハムスター、モルモットの飼養管理①		分類や歴史、形態的特徴を学び、適正な飼養方法について理解する				

15	ウサギとハムスター、モルモットの飼養管理②	ウサギの健康管理、疾病を学習する
16	ウサギとハムスター、モルモットの飼養管理③	ゴールデンハムスターとジャンガリアンハムスターの健康管理、疾病を学習する
17	ウサギとハムスター、モルモットの飼養管理④	モルモットの健康管理、疾病を学習する
18	フェレットとチンチラの飼養管理①	分類や歴史、形態的特徴を学び、適正な飼養方法について理解する
19	フェレットとチンチラの飼養管理②	フェレットの健康管理、疾病を学習する
20	フェレットとチンチラの飼養管理③	チンチラの健康管理、疾病を学習する
21	鳥類と爬虫類の飼養管理①	鳥類の健康管理、疾病を学習する
22	鳥類と爬虫類の飼養管理②	理 鳥類・爬虫類の健康管理、疾病を学習する
23	鳥類の飼養管理①	形態的特徴を学び、季節にあった栄養と飼養管理について理解する
24	鳥類の飼養管理②	分類ごとの特徴を理解し、飼養方法を学ぶ
25	爬虫類の飼養管理①	トカゲ目、ワニ目、カメ目の特徴と飼養方法について学ぶ
26	爬虫類の飼養管理②	有鱗目トカゲ類、ヘビ類の特徴と飼養方法について学ぶ
27	肉食動物、草食動物、 鳥類の形態機能①	肉食動物、草食動物、鳥類の形態機能の比較
28	肉食動物、草食動物、 鳥類の形態機能②	肉食動物、草食動物、鳥類の形態機能の比較
29	展示動物の飼育方法①	環境エンリッチメントによる飼育管理
30	展示動物の飼育方法②	環境エンリッチメントによる飼育管理

科目	産業動物学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	48	授業回数	24
担 当 教 員	片 桐 麻 里 奈			実務経験 ☒ 有 ☐ 無	授業形態	講義	
担 当 教 員	濱本大気・鎌田絵里・若山明子			実務経験 ☐ 有 ☒ 無	授業形態	講義	
学 習 目 標	産業動物の基礎知識と畜産としての酪農を学ぶ。産業動物の歴史や品種を理解する。畜産産業と社会の関わりについて学ぶ。産業動物として、飼育されている主な家畜の使用方法について学習し「5つの自由」を遵守した飼育方法理解する。						
使 用 教 材	動物の行動と健康管理						
評 価 基 準	試験・授業態度・提出物						
	テ ー マ		内 容				
1	産業動物の定義と特徴①		人間生活に有用な価値をもたらす動物、生産物やその能力を人が利用するために飼育している動物				
2	産業動物の定義と特徴②		人間生活に有用な価値をもたらす動物、生産物やその能力を人が利用するために飼育している動物				
3	産業動物として用いられる動物種①		牛の歴史				
4	産業動物として用いられる動物種②		牛の体の仕組み				
5	産業動物として用いられる動物種③		牛の特徴的な体の仕組み				
6	産業動物として用いられる動物種④		牛の特徴的な体の仕組み				
7	産業動物として用いられる動物種⑤		牛の繁殖				
8	産業動物として用いられる動物種⑥		馬の歴史				
9	産業動物として用いられる動物種⑦		馬の体の仕組み				
10	産業動物として用いられる動物種⑧		馬の特徴的な体の仕組み				
11	産業動物として用いられる動物種⑨		馬の繁殖				
12	産業動物として用いられる動物種⑩		豚の歴史				
13	産業動物として用いられる動物種⑪		豚の体の仕組み				
14	産業動物として用いられる動物種⑫		豚の特徴的な体の仕組み				

15	産業動物として用いられる動物種⑬	豚の繁殖
16	産業動物として用いられる動物種⑭	鶏の歴史
17	産業動物として用いられる動物種⑮	鶏の体の仕組み
18	産業動物として用いられる動物種⑯	鶏の繁殖
19	産業動物として用いられる動物種⑰	ヤギ・羊の歴史
20	産業動物として用いられる動物種⑱	ヤギ・羊の体の仕組み
21	産業動物として用いられる動物種⑲	ヤギ・羊の繁殖
22	産業動物として用いられる動物種⑳	分類ごとの特徴を理解し、飼養方法を学ぶ
23	酪農産業とは①	酪畜産業の基礎、畜産業界を取り巻く情勢
24	酪農産業とは②	飼養衛生管理基準について

科目	実験動物学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	14	授業回数	7
担 当 教 員		若 山 明 子			実務経験 □有 □無	授業形態	講義
学 習 目 標		実験動物の歴史や品種、飼育管理法、実験動物との関わりについて学ぶ。					
使 用 教 材		動物の行動と健康管理					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ ー マ		内 容				
1	実験動物の定義①		実験動物とは試験、実験、研究、教育、生物学的製剤の製造、その他化学上の使用の為合目的に繁殖生産した動物であることを学ぶ。				
2	実験動物の定義②		実験動物とは試験、実験、研究、教育、生物学的製剤の製造、その他化学上の使用の為合目的に繁殖生産した動物であることを学ぶ。				
3	実験動物の種類		マウス、ラット、モルモット、スナネズミ、ハムスター、フェレット、ウサギ、イヌ、ミニブタ				
4	遺伝的コントロール		再現性を高める為高い遺伝子構成の同一性が求められていることを学ぶ。				
5	衛生的・環境コントロール		微生物コントロールにより清浄度の高い順に無菌動物、ノトバイオ、SPF動物などの分類を理解する。 環境要因も大きく影響を与えることを学ぶ。				
6	実験動物の福祉		「3つのR」成り立ちと定義を学ぶ。				
7	飼育管理法		飼育管理法を学ぶ。				

科目	野生動物学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	30	授業回数	15
担 当 教 員		濱 本 大 気			実務経験 □有 ☒ 無	授業形態	講義
学 習 目 標		さまざまな動物の特徴と人との関わりを理解する。 日本の野生動物の種類と保全、動物園等の展示動物について学ぶ。					
使 用 教 材		動物の行動と健康管理					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ マ		内				

科目	動物内科学	学科/学年	動物看護科 1年	時間数	30	授業回数	15
担 当 教 員		古 山 馨			実務経験 □有 ☒ 無	授業形態	実習
学 習 目 標		犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて学ぶ。					
使 用 教 材							
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ マ		内				

科目	動物外科看護学	学科/学年	動物看護科 1年	時間数	60	授業回数	30
担 当 教 員		立 花 徹			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	実習
学 習 目 標		外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し安全な手術の実施に必要な知識を修得する。					
使 用 教 材		配布資料					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ マ		内 容				
1	外科診療時の補助に必要な技術の確認①		手術はどのように進められているのか一連の流れを知る。				
2	外科診療時の補助に必要な技術の確認②		手術はどのように進められているのか一連の流れを知る。				
3	無菌操作の重要性の確認①		手術時、手指を清潔に保つ必要があることを学び実際に手洗い方法を実践する。				
4	無菌操作の重要性の確認②		無菌的なマスク・ガウン・グローブの装着を行い無菌操作の必要性を確認する。				
5	手術前の動物に必要な情報、アセスメント、 飼い主に必要な指示を知る①		犬、猫の避妊手術時に必要な情報を飼い主から聞きとる方法を身に付ける。				
6	手術前の動物に必要な情報、アセスメント、 飼い主に必要な指示を知る②		犬、猫の避妊手術時に必要な指示を飼い主に伝える方法を身に付ける。				
7	手術室の環境管理①		手術室だけではなく手術に使用する器具や機器などの手入れ管理方法などを学ぶ。				
8	手術室の環境管理②		機器の正常な稼働を確認し、酸素ボンベ、麻酔器、その他の配置を考え実際に使用するよう設置する。				
9	滅菌と消毒の実践①		手術時に必要な滅菌、消毒の概念を理解する。				
10	滅菌と消毒の実践②		滅菌、消毒の概念を理解したうえで用途に合わせた滅菌、消毒方法を学ぶ。				
11	手術施設、設備の準備と管理①		機材の管理方法を確認し消耗品の管理と保存管理の現状を学ぶ。				
12	手術施設、設備の準備と管理②		衛生的な管理と清掃、機器の管理と消耗品管理、ストックの重要性を学ぶ。				
13	術者に必要な準備①		手洗いの技術、キャップ、マスク、ガウンの着脱の正しい手順を学ぶ。				
14	術者に必要な準備②		グローブの装着、無菌の意味と触れてはいけない範囲を学ぶ。				
15	手術チームの準備①		無菌、滅菌、消毒の知識学ぶ。				

16	手術チームの準備②	無菌、滅菌、消毒の知識学ぶ。
17	手術器具の準備と基礎知識①	器具の名称と役割を学ぶ。
18	手術器具の準備と基礎知識②	適材適所の用途、落ち度のない準備のためのチェック表活用方法、縫合材料の確認、消耗品管理を学ぶ。
19	消耗品管理の重要性①	在庫管理の重要性、使用後使用前チェック、チェック表の活用方法を学ぶ。
20	消耗品管理の重要性②	在庫管理の重要性、使用後使用前チェック、チェック表の活用方法を学ぶ。
21	術前、術中の動物管理と看護①	手術前の検査の有無を学び個体に合わせた検査方法を決定していく。
22	術前、術中の動物管理と看護②	術前の食止め、飲水、排尿量管理について学ぶ。
23	術前、術中の動物管理と看護③	術前の鎮痛処置について基礎知識を知り、痛みの管理について学ぶ。
24	術中の補助①	動物看護師の関わる業務として外回り（間接的な補助者）五感をつかったモニタリング、バイタルチェックを学ぶ。
25	術中の補助②	直接的な補助者としての役割を学ぶ。
26	術中麻酔に関する基礎①	麻酔のモニタリングと機器の知識を学ぶ。
27	術中麻酔に関する基礎②	麻酔導入から覚醒までの補助に必要な知識と麻酔記録を学ぶ。
28	術後の管理	安全確保、動物の観察と看護、痛みの観察をと管理、痛みの知識を学ぶ。
29	衛生管理	包帯法の基礎知識、術創の保護に必要な知識、創傷管理のための器材（ネット・カラーなど）を学ぶ。
30	救命救急処置	生命徴候のアセスメント、救命方法の知識、気管内挿管の知識を学ぶ。

科目	動物臨床看護学総論	学科/学年	動物看護科 1年	時間数	30	授業回数	15
担 当 教 員		濱本大気・若山明子			実務経験 □有 □無	授業形態	演習
学 習 目 標		動物の臨床看護に必要な知識を修得する。 動物看護の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。					
使 用 教 材		動物看護コアテキスト5・6・7 動物看護の基礎					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ ー マ		内 容				
1	動物看護過程の流れ①		1.要素 2.動物看護診断、要素 3.動物看護計画				
2	動物看護過程の流れ②		1.要素 2.動物看護診断、要素 3.動物看護計画				
3	動物看護過程の流れ③		1.要素 2.動物看護実践、動物看護評価				
4	動物看護過程の流れ④		1.要素 2.動物看護実践、動物看護評価				
5	QOL①		1.QOLについて				
6	QOL②		1.QOLについて				
7	動物看護過程の実践①		1.症状別の動物看護「痛み」 2.動物看護過程を用いて断脚手術を受ける動物の看護をGWで考え発表する				
8	動物看護過程の実践②		1.症状別の動物看護「痛み」 2.動物看護過程を用いて断脚手術を受ける動物の看護をGWで考え発表する				
9	動物看護過程の実践③		1.症状別の動物看護「痛み」 2.動物看護過程を用いて断脚手術を受ける動物の看護をGWで考え発表する				
10	動物看護過程の実践④		1.症状別の動物看護「かゆみ・脱毛」 2.動物看護過程を用いてかゆみ・脱毛がある動物の看護をGWで考え発表する				
11	動物看護過程の実践⑤		1.症状別の動物看護「かゆみ・脱毛」 2.動物看護過程を用いてかゆみ・脱毛がある動物の看護をGWで考え発表する				
12	動物看護過程の実践⑥		1.症状別の動物看護「かゆみ・脱毛」 2.動物看護過程を用いてかゆみ・脱毛がある動物の看護をGWで考え発表する				
13	動物看護過程の実践⑦		1.症状別の動物看護「嘔吐・排便異常」 2.動物看護過程を用いて嘔吐・排便異常がある動物の看護をGWで考え発表する				
14	動物看護過程の実践⑧		1.症状別の動物看護「嘔吐・排便異常」 2.動物看護過程を用いて嘔吐・排便異常がある動物の看護をGWで考え発表する				
15	動物看護過程の実践⑨		1.症状別の動物看護「嘔吐・排便異常」 2.動物看護過程を用いて嘔吐・排便異常がある動物の看護をGWで考え発表する				

科目	動物臨床看護学各論	学科/学年	動物看護科 1年	時間数	60	授業回数	30
担 当 教 員		林 茂			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	演習
学 習 目 標		さまざまな疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害をもつ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を修得する。					
使 用 教 材		配布資料					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ ー マ		内 容				
1	正しい診断へのステップ		バイタルサイン、体重、全身検査、動物の一般状態の把握方法について理解する。				
2	循環器疾患①		循環器系の形態と機能、循環器の疾患の問診、症状、検査を理解する。 うっ血性心不全について学ぶ				
3	循環器疾患②		うっ血性心不全の診断法、治療法を理解する。ショック概要を理解しその診断、治療法を理解する。				
4	循環器疾患③		犬糸状虫の概要を学び、治療、予防法を理解する。先天性循環器疾患の種類を理解する。				
5	呼吸器系疾患①		呼吸器系の形態と機能、呼吸器系の問診法、特徴的症状、検査について理解する。				
6	呼吸器系疾患②		各種呼吸器系疾患についてその概要、治療法などを理解する。鼻汁、くしゃみ、咳、ケンネルコフなどを理解する。猫の上部気道感染症候群を理解する。				
7	呼吸器系疾患③		各種呼吸器系疾患についてその概要、治療法などを理解する。肺炎、水胸、膿胸、血胸、肺水腫、気胸、肺気腫、気管虚脱について理解する。				
8	消化器系疾患①		消化器系の形態と機能、消化器系疾患の問診法、特徴的症状、検査について理解する。各種消化器疾患についてその概要、治療法などを理解する。 嚥下困難、流涎、口臭、吐出、下痢、血便、下血について理解する。				
9	消化器系疾患②		各種消化器系疾患についてその概要、治療法などを理解する。便秘、歯周疾患、巨大食道症、胃食道逆流症、胃炎、胃拡張、胃捻転、毛球症、ウィルス性腸炎、細菌性腸炎について理解する。				
10	消化器系疾患③		各種消化器系疾患についてその概要、治療法などを理解する。腸管内寄生虫による腸炎、イレウス、腸管のヘルニア、肛門嚢炎、腹膜炎について理解する。				
11	肝胆道系・膵外分泌系疾患①		肝臓と膵臓の形態と機能を理解する。				
12	肝胆道系・膵外分泌系疾患②		肝胆道系・膵外分泌系疾患の問診法、特徴的症状、検査について理解する。 各種肝胆道系疾患についてその概要治療法を理解する。黄疸、腹部膨満、肝性脳症、進行性慢性肝炎について理解する。				
13	肝胆道系・膵外分泌系疾患③		感染性肝炎、薬物や毒物による肝炎、肝リポドーシス、膵炎、膵外分泌不全について理解する。				
14	泌尿器系疾患①		泌尿器系の形態と機能を理解する。				
15	泌尿器系疾患②		泌尿器系疾患の問診法、特徴的症状、検査について理解する。各種泌尿器系疾患についてその概要、治療法などを理解する。排尿異常、多喝・多尿について理解する。				

16	泌尿器系疾患③	腎不全、猫の下部尿路疾患、ネフローゼ症候群、腎盂腎炎、腎性尿崩症、排尿障害、犬の尿石症について理解する。
17	内分泌系疾患①	内分泌系の形態と機能を理解する。副腎、膵臓、甲状腺について理解する。
18	内分泌系疾患②	各種内分泌系疾患の問診法、特徴的症状、検査について理解する。甲状腺機能低下症、糖尿病について理解する。
19	内分泌系疾患③	副腎皮質機能亢進症、副腎皮質機能低下症について理解する。
20	生殖機能系疾患①	生殖機能系の形態と機能を理解する。
21	生殖機能系疾患②	生殖機能系疾患の問診法、特徴的症状、検査について理解する。子宮蓄膿症、乳腺腫瘍、子癰、前立腺肥大について理解する。
22	血液・リンパ系疾患①	血液・リンパ系疾患の形態と機能を理解する。
23	血液・リンパ系疾患②	血症、細胞成分、リンパ系、血液・リンパ系疾患の問診法、特徴的症状、検査について理解する。血液塗抹の基本を理解する。
24	血液・リンパ系疾患③	貧血、再生性貧血、非再生性貧血を理解する。
25	神経系疾患①	神経系疾患の形態と機能を理解する。
26	神経系疾患②	大脳、脊髄、ニューロン、神経性疾患の問診法、特徴的症状、検査について理解する。椎間板ヘルニア、水頭症について理解する。
27	眼科系疾患 ①	眼科系疾患の形態と機能を理解する。
28	眼科系疾患 ②	眼科系疾患の問診法、特徴的症状、検査について理解する。結膜炎、核膜炎、水晶体疾患について理解する。
29	がん動物の看護	腫瘍随伴症候群、悪液質、治療の種類について理解する。
30	高齢動物の看護	身体に加齢の変化、生活改善指導について理解する。

科目	動物臨床看護学各論	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	60	授業回数	30
担 当 教 員		今 木 康 彦			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	演習
学 習 目 標		循環器系、呼吸器系、消化器系を主とした疾患に対して、動物看護過程をふまえた動物看護介入について理解することを目的とする。授業の流れは、循環器系、呼吸器系、消化器系の疾患とともにこれらと関連する脳神経系疾患、筋骨格系疾患、リハビリテーション、泌尿器系疾患、生殖器系疾患、内分泌系疾患、皮膚疾患、感染症および症状を合わせて、総合的に多角的に説明していくこととする。					
使 用 教 材		ファームプレス 第6巻					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ ー マ		内 容				
1	動物看護とは何か		1.動物看護とは何か 2.動物看護の活動の4要素 3.動物看護に対する考え方の広がり				
2	健康とは何か		1.健康の成立要因 2.総合保険獣医療				
3	一般身体検査とは何か①		1.一般身体検査 2.診察の流れ 3.問診 4.体重測定				
4	一般身体検査とは何か②		5.バイタルサイン (1) 呼吸数 (2) 脈拍数 (3) 体温				
5	動物看護過程とは何か		1.動物看護過程とは 2.動物看護過程の流れ				
6	動物看護過程の流れ①		2.動物看護過程の流れ (1) アセスメント (2) 看護診断				
7	動物看護過程の流れ②		2.動物看護過程の流れ (3) 看護計画 (4) 看護実践 (5) 看護評価				
8	飼い主の理解①		3.傾聴 (1) 傾聴の基本動作 (2) 情報聴取および伝え方				
9	飼い主の理解②		3.傾聴 (3) 要約聴取 (4) 非言語コミュニケーション				
10	飼い主の理解③		4.価値観および自己覚知				
11	循環器系・泌尿器系の構造と機能①		1.循環器系・泌尿器系の構造と機能 (1) 構造				
12	循環器系・泌尿器系の構造と機能②		1.循環器系・泌尿器系の構造と機能 (2) 機能				
13	循環器系疾患の観察ポイント①		2.観察ポイント (1) 心筋に関する異常 (2) 刺激伝導系に関する異常				
14	循環器系疾患の観察ポイント②		2.観察ポイント (3) ポンプ機能の低下による障害 ①左心室 ②右心室 3.検査				
15	循環器系・泌尿器系疾患に対する看護介入①		4.看護介入 (1) 問診のポイント (2) 一般状態 (3) 検査時における看護介入				

16	循環器系・泌尿器系疾患に対する看護介入②	4.看護介入（4）治療時にける看護介入 （5）主な疾患に対する看護介入
17	呼吸器系の構造と機能	1.呼吸器系の構造と機能（1）呼吸器の構造（2）呼吸の機能
18	呼吸器系疾患の観察ポイント①	2.観察ポイント（1）気道の状態（2）換気量
19	呼吸器系疾患の観察ポイント②	2.観察ポイント（3）酸素化能力 3.検査
20	呼吸器系疾患に対する看護介入①	4.看護介入（1）問診のポイント（2）一般状態 （3）検査時における看護介入
21	呼吸器系疾患に対する看護介入②	4.看護介入（4）治療時にける看護介入（5）主な疾患に対する看護介入
22	消化器系・内分泌系の構造と機能	1.消化器系・内分泌系の構造と機能（1）構造（2）機能
23	消化器系疾患の観察ポイント①	2.観察ポイント（1）口腔内（2）嚥下（3）食道（4）甲状腺（5）上皮小体
24	消化器系疾患の観察ポイント②	2.観察ポイント（6）胃（7）腸（8）膵臓
25	消化器系疾患の観察ポイント③	2.観察ポイント（9）肝臓（10）副腎 3.検査
26	消化器系疾患に対する看護介入①	4.看護介入（1）問診のポイント（2）一般状態（3）検査時における看護介入
27	消化器系疾患に対する看護介入②	4.看護介入（4）治療時にける看護介入（5）主な疾患に対する看護介入
28	デンタルケア	1.歯の構造と機能 2.歯垢と歯石 3.検査と治療 4.デンタルケア
29	運動器系疾患に対する看護介入①	1.骨、筋肉、神経の構造と機能
30	運動器系疾患に対する看護介入②	2.リハビリテーション

科目	動物臨床栄養学	学科/学年	動物看護科 1年	時間数	30	授業回数	15
担 当 教 員		廣田典子・片桐麻里奈			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	演習
学 習 目 標		栄養学総論では、小動物の栄養に関する基礎を理解し、動物看護師としてライフステージ別の栄養指導やカロリー計算などを活用して飼い主にアドバイスができることを目的とする。栄養学各論では、総論で学んだ知識を活用して疾病時に必要な栄養管理について学ぶ。また、疾病の進行に合わせた食事を飼い主に提案できるようになることを目的とする。					
使 用 教 材		動物看護コアテキスト6 動物看護の実践					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ マ		内 容				
1	栄養学総論①		六大栄養素を理解する①				
2	栄養学総論②		六大栄養素を理解する②				
3	栄養学総論③		犬・猫の必要栄養素の違いを理解する				
4	栄養学総論④		ペットフードの表記を理解する				
5	栄養学総論⑤		ライフステージの違いを理解する				
6	栄養学総論⑥		BCS評価およびカロリー計算ができる①				
7	栄養学総論⑦		BCS評価およびカロリー計算ができる②				
8	栄養学総論⑧		六大栄養素について、組成、働き、代謝などを復習をする①				
9	栄養学総論⑨		六大栄養素について、組成、働き、代謝などを復習をする②				
10	栄養学各論①		食事療法とは何か学ぶ				
11	栄養学各論②		食事療法食の表記と取り扱いについて学ぶ①				
12	栄養学各論③		食事療法食の表記と取り扱いについて学ぶ②				
13	栄養学各論④		疾患別による栄養特性 下部尿路疾患の原因と病態について学ぶ①				
14	栄養学各論⑤		疾患別による栄養特性 下部尿路疾患の原因と病態について学ぶ②				
15	栄養学各論⑥		疾患別による栄養特性 下部尿路疾患の原因と病態について学ぶ③				

科目	動物臨床栄養学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	30	授業回数	15
担 当 教 員		廣 田 典 子			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	演習
学 習 目 標		栄養学総論では、小動物の栄養に関する基礎を理解し、動物看護師としてライフステージ別の栄養指導やカロリー計算などを活用して飼い主にアドバイスができることを目的とする。栄養学各論では、総論で学んだ知識を活用して疾病時に必要な栄養管理について学ぶ。また、疾病の進行に合わせた食事を飼い主に提案できるようになることを目的とする。					
使 用 教 材		動物看護コアテキスト6 動物看護の実践					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ ー マ		内 容				
1	栄養学各論①		疾患別による栄養特性 皮膚疾患について学ぶ①				
2	栄養学各論②		疾患別による栄養特性 いろいろな皮膚疾患の栄養管理について学ぶ①				
3	栄養学各論③		疾患別による栄養特性 皮膚疾患について学ぶ② いろいろな皮膚疾患の栄養管理について学ぶ②				
4	栄養学各論④		疾患別による栄養特性 肥満について学ぶ① 肥満と疾患の関連について理解する①				
5	栄養学各論⑤		疾患別による栄養特性 肥満について学ぶ② 肥満と疾患の関連について理解する②				
6	栄養学各論⑥		疾患別による栄養特性 消化管系疾患について学ぶ				
7	栄養学各論⑦		疾患別による栄養特性 下痢症状に対する栄養管理について学ぶ				
8	栄養学各論⑧		疾患別による栄養特性 便秘症状に対する栄養管理について学ぶ				
9	栄養学各論⑨		疾患別による栄養特性 心臓病について学ぶ①				
10	栄養学各論⑩		疾患別による栄養特性 心臓病について学ぶ② 心臓疾患に対する栄養管理について学ぶ				
11	栄養学各論⑪		疾患別による栄養特性 腎臓疾患について学ぶ① 腎臓疾患に対する栄養管理について学ぶ①				
12	栄養学各論⑫		疾患別による栄養特性 腎臓疾患に対する栄養管理について学ぶ②				
13	栄養学各論⑬		疾患別による栄養特性 腎臓疾患について学ぶ② 腎臓疾患に対する栄養管理について学ぶ③				
14	栄養学各論⑭		疾患別による栄養特性 肝臓疾患について学ぶ①				
15	栄養学各論⑮		疾患別による栄養特性 肝臓疾患について学ぶ② 肝臓疾患に対する栄養管理について学ぶ				

科目	動物臨床検査学	学科/学年	動物看護科 1年	時間数	30	授業回数	15
担 当 教 員		廣 田 典 子			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	演習
学 習 目 標		1.動物看護実践学で学んだ内容の確認し、より正確な知識を定着させる。2.さまざまな検査に対応できる保定法を身につける。3.臨床現場でスムーズに検査が行えるよう、検査手技の効率化を身につける。4.投与法の準備が迅速に行え、投与手技を身につけることでより動物に寄り添った看護が行えるようにする。					
使 用 教 材		動物看護コアテキスト6 動物看護の実践 ・ 配布資料					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ ー マ		内 容				
1	保定法・包帯法①		1.保定法について学習する ①保定の目的について学習する				
2	保定法・包帯法②		1.保定法について学習する ②採血時の保定法を学習し、その方法を習得する				
3	保定法・包帯法③		1.保定法について学習する ③採血時以外のさまざまな場合を想定し、適応する保定法を学習する				
4	保定法・包帯法④		2.包帯法について学習する ①包帯法の目的について学習する				
5	保定法・包帯法⑤		2.包帯法について学習する ②さまざまな包帯法について学習する				
6	保定法・包帯法⑥		2.包帯法について学習する ③器具、道具を使用した包帯法について学習する				
7	保定法・包帯法⑦		3.保定法、包帯法実習 ①犬を使用し、さまざまな保定法を学習する				
8	血液検査 ①		1.血液検査の目的を復習する				
9	血液検査 ②		2.血液検査実習① ヘマトクリット管、遠心分離器、蛋白比重計の使用法を確認し、習得する				
10	血液検査 ③		1.血液検査実習② 自動血球計算器、血液化学検査、血液電解質検査の方法を確認し、効率的に実施できるようにする				
11	血液検査について		1.血液検査の各項目について、意義と評価を学習する				
12	糞便検査①		1.糞便検査の目的を確認する ①直接塗抹法の手技を復習し、より効率的に実施できるように学習する				
13	糞便検査②		1.糞便検査の目的を確認する ②浮遊法の手技を確認し、より効果的に実施できるように学習する				
14	投与法①		1.投与法の種類と方法を復習する ①強制給餌法 ②経口投与について学習する				
15	投与法②		1.投与法の種類と方法を復習する ③点眼投与 ④点耳投与について復習し、より効率的に実施できるよう学習する。⑤飼い主に投与方法、注意点などを説明できるよう学習する				

科目	動物臨床検査学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	30	授業回数	15
担 当 教 員		廣 田 典 子			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	演習
学 習 目 標		1.班で学習することでコミュニケーション能力を養い、チーム医療に参加できるように意識づける。2.動物病院の受付業務をシミュレーションを通して学び、問診法や飼い主への対応を学習する。3.さまざまな検査や周術期管理を迅速かつ正確に行えるように学ぶ。4.臨床現場で責任もって検査が行えるよう、個々の意識を高める。					
使 用 教 材		動物看護コアテキスト6 動物看護の実践 ・ 配布資料					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ ー マ		内 容				
1	調剤法①		1.薬剤の種類、剤形などについて学習する				
2	調剤法②		2.調剤に際しての注意点などを学習する				
3	調剤法③		3.投与量の計算を復習し、確実に必要量が算出できるようになる				
4	調剤法④		4.調剤法実習 ①投与量を計算し、調剤を行う				
5	調剤法⑤		4.調剤法実習 ②分包器の構造、使用法を確認する				
6	調剤法⑥		4.調剤法実習 ③効率よく分包できるよう練習し、習得する				
7	尿検査①		1.尿検査の目的を確認する				
8	尿検査②		2.尿検査実習 ①一般検査について確認する				
9	尿検査③		2.尿検査実習 ②試験紙による化学的検査法の手技を復習し、より効率的に実施できるよう学習する				
10	尿検査④		2.尿検査実習 ③細胞学的検査の手技を復習し、より効果的に実施できるよう学習する				
11	まとめ①		1.看護の実践的な作業を確認し、現場で適切に対応できるようにする ①保定法：採血時の保定法を確認する				
12	まとめ②		1.看護の実践的な作業を確認し、現場で適切に対応できるようにする ②検査：血液、糞便、尿検査方法を確認し、効率的に実施できるように学習する				
13	まとめ③		1.看護の実践的な作業を確認し、現場で適切に対応できるようにする ③注射法：それぞれの注射法に必要な器具の準備ができるか確認し、その手技も実践できるか確認する				
14	まとめ④		1.看護の実践的な作業を確認し、現場で適切に対応できるようにする ④調剤法：さまざまな剤形のを適切に処理し、分包できるか確認する				
15	保定法		1.保定法を復習する ①小型犬の保定法を復習する②大型犬の保定法を学習し、その方法を習得する 2. 体脂肪測定 ①体脂肪計の使用法を学び、測定を行う				

科目	動物医療コミュニケーション	学科/学年	動物看護科 1年	時間数	18	授業回数	9
担 当 教 員		中川佳代子・小林文香			実務経験 □有 □無	授業形態	演習
学 習 目 標		コミュニケーションは動物病院業務に非常に重要で、診療にも大きく影響を与える。信頼される社会人として身だしなみの重要性、敬語の使い方、表情、立ち振る舞いの基本動作を講座で学び実習、グループワーク等で精度を高める。また、チーム獣医療に必要なコミュニケーションスキルを身につける。					
使 用 教 材		動物医療コミュニケーション資料一式・ノート					
評 価 基 準		試験・授業態度					
	テ ェ マ		内 容				
1	院内コミュニケーションとは①		院内コミュニケーションの必要性、重要性を講義で学ぶ。				
2	院内コミュニケーションとは②		院内コミュニケーションの必要性、重要性を講義で学び、各グループで話し合い発表する。				
3	社会人コミュニケーション能力の基礎①		挨拶、お辞儀、滑舌練習を実習で学ぶ。				
4	社会人コミュニケーション能力の基礎②		挨拶、お辞儀、滑舌練習をグループワークで精度を高める。				
5	飼い主対応の基礎①		飼い主のお迎え対応を基礎から講義、実習で学ぶ。				
6	飼い主対応の基礎②		飼い主の診察対応を基礎から講義、実習で学ぶ。				
7	飼い主対応の基礎③		飼い主の送り出し対応を基礎から講義と実習で学ぶ。				
8	飼い主対応の基礎④		飼い主のお迎え・診察対応・送り出し対応をグループワーク方式で精度を高める。				
9	飼い主対応の基礎⑤		「ほうれんそう」「5W2H」の基礎を講義で学ぶ。				

科目	動物医療コミュニケーション	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	20	授業回数	10
担 当 教 員		中川佳代子・小林文香			実務経験 □有 ☒ 無	授業形態	演習
学 習 目 標		動物看護師の動物病院での役割は幅広く多岐にわたる。動物病院での業務を背景にあらゆる状況に応じたコミュニケーション力を身につけ、クライアントエデュケーションを理解し、飼い主教育指導を学ぶ。またホスピタリー精神を養い飼い主・患者に豊かなQ O L の提供、グリーフケアについても学習する。					
使 用 教 材		動物医療コミュニケーション資料一式・ノート					
評 価 基 準		試験・授業態度					
	テ マ		内				

科目	動物形態機能学実習	学科/学年	動物看護科 1年	時間数	46	授業回数	23
担 当 教 員		濱 本 大 気			実務経験 □有 ☒ 無	授業形態	実習
学 習 目 標		動物のからだの形態と機能を骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶび修得した知識の実践力を身につける。					
使 用 教 材		犬と猫の身体のしくみ・絵で見る解剖学					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ マ		内 容				
1	動物形態機能学実習概論①		動物を生命体として細胞、組織、臓器レベルの各階層での知識は動物形態機能学で修得しながら犬の体に触れた時今自分が触れている所には何があるか立体的にわかるようになる。動物のからだを構成する骨、筋、内臓器官の位置と相関関係が立体的に理解する。				
2	動物形態機能学実習概論②		動物を生命体として細胞、組織、臓器レベルの各階層での知識は動物形態機能学で修得しながら犬の体に触れた時今自分が触れている所には何があるか立体的にわかるようになる。動物のからだを構成する骨、筋、内臓器官の位置と相関関係が立体的に理解する。				
3	動物形態機能学実習概論③		動物を生命体として細胞、組織、臓器レベルの各階層での知識は動物形態機能学で修得しながら犬の体に触れた時今自分が触れている所には何があるか立体的にわかるようになる。動物のからだを構成する骨、筋、内臓器官の位置と相関関係が立体的に理解する。				
4	体の表面①		体位と方向を示す用語を知り、説明する。 パズルなどで確認する。				
5	体の表面②		体位と方向を示す用語を知り、説明する。 パズルなどで確認する。				
6	骨、関節①		犬の骨格標本に触れながら全身の骨格を確認し名称を知る。				
7	骨、関節②		犬の骨格標本に触れながら全身の骨格を確認し名称を知る。確認しながらスケッチする。				
8	骨、関節③		頭蓋、歯、脊柱、肋骨、肩、腕、前腕部の骨。 骨盤を構成する骨、大腿骨と下腿を構成する骨。				
9	骨、関節④		頭蓋、歯、脊柱、肋骨、肩、腕、前腕部の骨。骨盤を構成する骨、大腿骨と下腿を構成する骨。確認しながらスケッチをする。				
10	骨、関節⑤		代表的な骨の名称と特徴を確認。関節の構造を確認し、代表的な関節と名称作り働きを確認する。				
11	骨、関節⑥		代表的な骨の名称と特徴を確認。関節の構造を確認し、代表的な関節と名称作り働きを確認する。確認しながらスケッチをする。				
12	内臓器官の位置①		雌の特徴的な内臓器官の位置と概観を確認し、スケッチをする。				
13	内臓器官の位置②		雄の特徴的な内臓器官の位置と概観を確認し、スケッチをする。犬の生体に触れた時にその部位にはどのような臓器が位置しているかが頭に浮かぶようにする。				
14	内臓器官の位置③		犬の生体に触れた時にその部位にはどのような臓器が位置しているかが頭に浮かぶようにする。				

15	代表的な深層の筋①	外側から見た代表的な体幹深層、四肢の筋の名称と働きを知る。
16	代表的な深層の筋②	外側から見た代表的な体幹深層、四肢の筋の名称と働きを知りスケッチをする。
17	代表的な深層の筋③	体幹深層、四肢の筋のの起始、停止を確認しながら働きを知りスケッチを行う。
18	代表的な浅層の筋	大部分の筋膜と皮筋を除去した後の外側から見た浅層筋の起始、停止を確認しながら働きを知り、スケッチをする。
19	顕微鏡の操作方法①	適切な顕微鏡の操作方法および取り扱いを身に付ける。顕微鏡の各部位と強検倍率、強検条件を理解する。正しい操作と基本的な管理ができる。
20	顕微鏡の操作方法②	適切な顕微鏡の操作方法および取り扱いを身に付ける。顕微鏡の各部位と強検倍率、強検条件を理解する。正しい操作と基本的な管理ができる。
21	健常な組織像を顕微鏡で観察①	特徴のある主要臓器の組織像を観察しスケッチする。 甲状腺、肺、肝臓、腎臓、脾臓、腸など
22	健常な組織像を顕微鏡で観察②	特徴のある主要臓器の組織像を観察しスケッチする。 甲状腺、肺、肝臓、腎臓、脾臓、腸など
23	健常な組織像を顕微鏡で観察③	特徴のある主要臓器の組織像を観察しスケッチする。 甲状腺、肺、肝臓、腎臓、脾臓、腸など

科目	動物内科看護学実習	学科/学年	動物看護科 1年	時間数	60	授業回数	30
担 当 教 員		片 桐 麻 里 奈			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	実習
学 習 目 標		犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技、またグルーミングの技術を得ることにより皮膚や被毛を中心とした健康状態の把握について理解を深め、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。					
使 用 教 材							
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ ー マ		内 容				
1	動物の健康状態チェック①		実際の動物を使用し個体の観察と把握を徹底し基礎情報を収集しながら健康チェックを行う。				
2	動物の健康状態チェック②		実際の動物を使用し個体の観察と把握を徹底し基礎情報を収集しながら健康チェックを行う。				
3	動物の健康状態チェック③		実際の動物を使用し個体の観察と把握を徹底し基礎情報を収集しながら健康チェックを行う。				
4	動物看護師が行う保定①		保定をする意味。動物種による適正な保定法の確認と実践。獣医学的な処置に適した保定。保定の種類などを学び実践する。				
5	動物看護師が行う保定②		保定をする意味。動物種による適正な保定法の確認と実践。獣医学的な処置に適した保定。保定の種類などを学び実践する。				
6	動物看護師が行う保定③		保定をする意味。動物種による適正な保定法の確認と実践。獣医学的な処置に適した保定。保定の種類などを学び実践する。				
7	動物看護師が行う保定④		保定をする意味。動物種による適正な保定法の確認と実践。獣医学的な処置に適した保定。保定の種類などを学び実践する。				
8	動物看護師が行う保定⑤		保定をする意味。動物種による適正な保定法の確認と実践。獣医学的な処置に適した保定。保定の種類などを学び実践する。				
9	動物の飼育環境の確認と整備、 一般的な管理状態の確認①		一般的な動物の飼育環境を理解し、実際に使用する動物の飼育環境の確認と整備をする。				
10	動物の飼育環境の確認と整備、 一般的な管理状態の確認②		一般的な動物の飼育環境を理解し、実際に使用する動物の飼育環境の確認と整備をする。				
11	動物の飼育環境の確認と整備、 一般的な管理状態の確認③		一般的な動物の飼育環境を理解し、実際に使用する動物の飼育環境の確認と整備をする。				
12	被毛や皮膚の管理の実践①		体表や被毛の部位・毛色などグルーミングに必要な用語を学ぶ。また健康な状態を理解し疾患が疑われた時の対応も学ぶ。				
13	被毛や皮膚の管理の実践②		体表や被毛の部位・毛色などグルーミングに必要な用語を学ぶ。また健康な状態を理解し疾患が疑われた時の対応も学ぶ。				
14	被毛や皮膚の管理の実践③		体表や被毛の部位・毛色などグルーミングに必要な用語を学ぶ。また健康な状態を理解し疾患が疑われた時の対応も学ぶ。				
15	被毛や皮膚の管理の実践④		体表や被毛の部位・毛色などグルーミングに必要な用語を学ぶ。また健康な状態を理解し疾患が疑われた時の対応も学ぶ。				

16	被毛や皮膚の管理の実践⑤	体表や被毛の部位・毛色などグルーミングに必要な用語を学ぶ。また健康な状態を理解し疾患が疑われた時の対応も学ぶ。また歯ブラシも実践する。
17	被毛や皮膚の管理の実践⑥	体表や被毛の部位・毛色などグルーミングに必要な用語を学ぶ。また健康な状態を理解し疾患が疑われた時の対応も学ぶ。また歯ブラシも実践する。
18	被毛や皮膚の管理の実践⑦	体表や被毛の部位・毛色などグルーミングに必要な用語を学ぶ。また健康な状態を理解し疾患が疑われた時の対応も学ぶ。また歯ブラシも実践する。
19	被毛や皮膚の管理の実践⑧	体表や被毛の部位・毛色などグルーミングに必要な用語を学ぶ。また健康な状態を理解し疾患が疑われた時の対応も学ぶ。また歯ブラシも実践する。
20	グルーミング概論①	グルーミングが与える動物への効果を学び様々な犬種や状態に応じたグルーミングの技術を得るとともに獣医学的見地から動物への看護およびケアにあたる。
21	グルーミング概論②	グルーミングが与える動物への効果を学び様々な犬種や状態に応じたグルーミングの技術を得るとともに獣医学的見地から動物への看護およびケアにあたる。
22	グルーミング概論③	グルーミングが与える動物への効果を学び様々な犬種や状態に応じたグルーミングの技術を得るとともに獣医学的見地から動物への看護およびケアにあたる。
23	グルーミング概論④	グルーミングが与える動物への効果を学び様々な犬種や状態に応じたグルーミングの技術を得るとともに獣医学的見地から動物への看護およびケアにあたる。
24	グルーミング概論⑤	グルーミングが与える動物への効果を学び様々な犬種や状態に応じたグルーミングの技術を得るとともに獣医学的見地から動物への看護およびケアにあたる。
25	グルーミング概論⑥	グルーミングが与える動物への効果を学び様々な犬種や状態に応じたグルーミングの技術を得るとともに獣医学的見地から動物への看護およびケアにあたる。
26	グルーミング概論⑦	グルーミングが与える動物への効果を学び様々な犬種や状態に応じたグルーミングの技術を得るとともに獣医学的見地から動物への看護およびケアにあたる。
27	グルーミング概論⑧	グルーミングが与える動物への効果を学び様々な犬種や状態に応じたグルーミングの技術を得るとともに獣医学的見地から動物への看護およびケアにあたる。
28	グルーミング概論⑨	グルーミングが与える動物への効果を学び様々な犬種や状態に応じたグルーミングの技術を得るとともに獣医学的見地から動物への看護およびケアにあたる。
29	グルーミング概論⑩	グルーミングが与える動物への効果を学び様々な犬種や状態に応じたグルーミングの技術を得るとともに獣医学的見地から動物への看護およびケアにあたる。
30	グルーミング概論⑪	グルーミングが与える動物への効果を学び様々な犬種や状態に応じたグルーミングの技術を得るとともに獣医学的見地から動物への看護およびケアにあたる。

科目	動物内科看護学実習	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	30	授業回数	15
担 当 教 員		鎌 田 絵 里			実務経験 □有 ☒ 無	授業形態	実習
学 習 目 標		犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技、またグルーミングの技術を得ることにより皮膚や被毛を中心とした健康状態の把握について理解を深め、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。					
使 用 教 材							
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ マ		内				

科目	動物臨床検査学実習	学科/学年	動物看護科 1年	時間数	30	授業回数	15
担当教員		立 花 徹			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	実習
学 習 目 標		それぞれの動物種の状態に応じた保定技術を身につけスムーズな診療・処置を行えるようにする。また、講義で習得した知識の実践とし、診療現場で必要な観察力および看護法に関する基本的手技を身につける。また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。動物の基礎情報を収集し診療補助からはじまるトータルケアの看護技術を学ぶ。飼い主から得た主訴・病歴などの情報をもとに全身の身体検査を実施しバイタルサインの評価・記録・獣医師の報告が行えるようにする。					
使 用 教 材							
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ ー マ		内 容				
1	バイタルサイン (体温・脈拍)		バイタルサインとは何か？その重要性和意義を学ぶ。バイタルサイン 脈拍 バイタルチェックと身体検査の方法を習得する。				
2	バイタルサイン (呼吸数・呼吸パターン、体重測定)		バイタルの正常値を把握する。バイタルの異常を早く見つけ獣医師に報告する。				
3	バイタルサイン (PFA・CRT・血圧測定・尿量チェック)		身体から得られる可能な限りの情報を探し、動物の状態をより詳しく把握する。測定方法・測定部位評価法を学ぶ。測定部位・装着方法・正常値の理解した上で、血行動態と循環血量の把握と理解する。体重管理と合わせて飲水量・尿量をチェックする。				
4	顕微鏡・器具の取り扱い (概論、名称・倍率・条件、操作法)		顕微鏡の適切な取り扱いと操作方法を学ぶ。対物・接眼レンズの倍率、明るさ、ピントなど適切に調整できる。油浸オイルの使い方および使用後の清掃を学ぶ。				
5	血液検査① (概論、意義・目的)		血液検査の意義・血液成分と役割・正常値・検査項目を学ぶ。駆血の仕方・衰弱した動物への接し方・採血部位を学ぶ。				
6	血液検査②③ (採血部位・保定・駆血、血液の取り扱い、CBC検査、血液塗抹標本)		採血部位の確認と保定および駆血の仕方を学ぶ。血液の抗凝固処理・取り扱い方を学ぶ。CBC検査の意義を理解し、その手技を学ぶ。血液塗抹標本の意義を理解し、その方法・染色法を学ぶ。				
7	血液検査④ (生化学検査、輸血・クロスマッチ)		生化学検査の意義を理解し、適切な手技を習得する。輸血時のクロスマッチの意義を理解すると同時に手技を習得する。				
8	血液検査⑤ (免疫学的検査、凝固系検査)		簡易キットを使った免疫学的検査の意義を理解し、抗原・抗体の仕組みを学ぶ。凝固系の検査の意義を理解し、止血機能と凝固の仕組みについて学ぶ。				
9	血液検査⑥ (内分泌・ホルモン)		内分泌・ホルモンに働きについて学び、測定する意義を理解する。				
10	尿検査① (目的・意義、機器・備品管理、採尿法)		泌尿器系の働きと臨床検査の関連性を学ぶ。正常尿と異常尿の疑われる疾患の理解。器具機材の取り扱いを理解する。				
11	尿検査② (物理学的性状検査、化学的検査、顕微鏡学的検査)		各種採尿法、尿の正しい取り扱いを学ぶ。物理学的性状検査の意義を理解し、適切な手技ができる。色調や混濁の観察・判断。比重・タンパク尿の測定。				
12	尿検査③ (物理学的性状検査、化学的検査、顕微鏡学的検査)		化学的な検査の意義を理解し、適切な手技ができる。尿試験紙の正しい取り扱いを学ぶ。尿沈渣で認められる結晶・細胞成分・尿円柱・細菌などについて詳しく学び、形状をみて判断できるようになる。				
13	糞便検査① (目的・意義、採便法)		糞便検査の意義を理解し、消化器疾患との関連性を考える。				
14	糞便検査② (物理学的性状検査、顕微鏡学的検査、虫卵検査、免疫学的検査)		採便法のメリット・デメリットを知る。物理学的性状の検査を理解し適切な手技ができる。色調・硬度・形状・臭気・含有物などの顕微鏡学的検査の意義を理解し適切な手技を習得する。				
15	糞便検査③ (物理学的性状検査、顕微鏡学的検査、虫卵検査、免疫学的検査)		直接法・浮遊法を習得し、虫卵の検出・判断をする。簡易キットを用いた免疫学的検査の意義を理解し、適切な手技ができる。				

科目	動物臨床検査学実習	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	70	授業回数	35
担当教員		立 花 徹			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	実習
学 習 目 標		それぞれの動物種の状態に応じた保定技術を身につけスムーズな診療・処置を行えるようにする。また、講義で習得した知識の実践とし、診療現場で必要な観察力および看護法に関する基本的手技を身につける。また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。動物の基礎情報を収集し診療補助からはじまるトータルケアの看護技術を学ぶ。飼い主から得た主訴・病歴などの情報をもとに全身の身体検査を実施しバイタルサインの評価・記録・獣医師の報告が行えるようにする。					
使 用 教 材							
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ ー マ		内 容				
1	調剤①（医薬品概論、処方箋・用語、種類・形状・標記、薬用量計算）		医薬品の定義を知り情報の必要性、薬物動態について理解する。処方箋と調剤用語を理解し、処方箋の内容が理解できる。				
2	調剤② （調剤手技、分包、投薬法）		薬剤の形状・標記を理解できる。内服薬・外用薬・注射薬に種類と特徴を学ぶ。医薬品の種類（劇薬・毒薬・要指示薬）を学ぶ。				
3	調剤③ （調剤手技、分包、投薬法）		目的とする薬剤の薬用量の計算・調剤・分包について理解する。各種薬剤の調剤方法を学び、的確な調剤選択をする。				
4	調剤④ （調剤手技、分包、投薬法）		分包の手技と分包機の使い方マスターする。薬剤を正しく理解し、各種剤型で正確に投与する方法をマスターする。				
5	注射法①（概論・保定、シリンジ、注射針の扱い、注射薬（アンプル・バイアル）の扱い）		注射が行われる目的と必要性を学び、併せて擦れに必要な保定法を身につける。シリンジ・注射針の構造や種類を理解し、正しい取り扱いを身につける。保存されている薬剤容器の取り扱いと容器からの薬剤の必要量の取り分けができる。				
6	注射法②（皮下注射・筋肉注射、静脈注射、皮下点滴準備・手技、輸液剤の種類、静脈留置準備・手技）		さまざまな注射の投与方法の手技とその利点を理解する。点滴に必要な備品とその名称について学び、その手技を習得する。輸液剤の種類を学び、投与経路・投与方法・投与量について考える。留置針の種類・構造を学び、それに必要な備品を準備できるようにする。				
7	注射法③（輸液管理（ライン管理・接続・輸液ポンプ設定）、入院管理・衛生管理		輸液の適切な接続および操作法を身につける。動物の大きさ・状態を観察しそれに合わせた輸液の量を考える。排泄物の感染源の理解と衛生管理を学び、隔離室を含めた衛生的な入院環境を実践する。				
8	レントゲン検査①（基本原理、撮影器具・撮影条件、ポジショニング）		X線と可視光線の違いについて学び、その特徴を利用した撮影について学ぶ。適切な撮影に用いる器具及び撮影条件に必要な電流・電圧・時間の設定について学ぶ。動物の種類を認識し、その被写体の正確なポジションを考え、さらに負担のかからない保定法を学ぶ。				
9	レントゲン検査②（現像・定着、データ管理、読影）		適切な現像・定着・水洗・乾燥の手技を学ぶ。フィルムのデータ管理について学ぶ。レントゲンフィルムの臓器による画像の濃淡を考え、基本的な読影を理解する。				
10	心電図①（概論・目的・意義、基本原理、操作法、ポジショニング、正常波形の解釈と記録紙の見方、異常波形の解釈）		心電図の検査の目的を理解し、疾患との関連性について学ぶ。心電図の原理を学び、解剖生理と刺激伝導系の仕組みを理解する。心電図の取り扱いと操作方法、電極の装着法、記録紙の取り方を学ぶ。				
11	心電図② （データの読み取り）		測定に際し、できるだけ動物に負担のない保定を実践する。心筋の収縮・刺激伝導系を理解し、正常波形の関連性を学ぶ。異常波形の種類とそこから疑われる疾患について学ぶ。検査を実施した心電図波形から、データを分析する。				
12	眼科①（目的・意義・解剖、視覚検査、神経学的検査）		眼の解剖を知り、眼科検査の目的・意義を理解する。威嚇検査、綿球落下検査、迷路試験など視覚検査の意義と手技を学ぶ。角膜反射、眼瞼検査、対光反射など神経学的検査の意義と手技を学ぶ。				
13	眼科② （シルマー試験、眼圧測定、眼底検査）		シルマー試験の方法と意義を学ぶ。眼圧測定の方法と意義について学び、適切で繊細な手技ができる。眼底検査の方法と意義について理解し、適切な手技ができ、併せて評価できるようになる。				

14	眼科③ (細隙灯顕微鏡検査、眼科疾患)	細隙灯顕微鏡の方法と意義について理解し、適切な手技ができ、併せて評価できるようになる。眼科検査と疾患について、その関連性を学ぶ。
15	救命救急①(基礎知識、救命救急の臨床例 (外傷・眼科・神経・中毒・呼吸・ 心臓循環・ショック))	救急救護の基礎知識の習得と心構えを学ぶ。各病態の知識と対応・処置について学ぶ。救急救命処置時のモニターの手技とその重要性と評価について学ぶ。
16	救命救急②(緊急時のモニター、心肺停止と心肺 蘇生、緊急薬品の知識、緊急薬品の輸液)	救急救命時の評価と基本的な蘇生法を学ぶ。救急救命処置時に使用される薬剤について学ぶ。救急救命処置時の輸液療法で、その輸液の種類や投与量・投与時間・投与経路について学ぶ。
17	皮膚検査①(目的・意義、機器・備品、 病変の観察と記録、皮膚掻爬・スタンプ ・被毛検査、ウッド検査・真菌培養法)	皮膚検査の意義を理解し、適切な手技を身につける。皮膚検査に用いる機器、用具の名称と用途を学ぶ。皮膚病変の観察により、異常所見の記録をできるようになる。
18	皮膚検査② (耳(外耳・中耳・内耳))	皮膚掻爬・スタンプ・被毛検査の意義を理解し、手技をマスターする。ウッド検査・真菌培養法の意義を理解し、手技をマスターする。耳の解剖生理を理解し、さまざまな耳の疾患について学ぶ。
19	微生物学的検査(細菌・真菌①) (概要、菌種、細菌・真菌培養、菌の取り扱い)	微生物学及び微生物学的検査の意義を理解し、適切な手技を学ぶ。細菌と真菌の種類と形状を学び、それぞれの特徴を理解する。
20	微生物学的検査(細菌・真菌②) (標本作成(固定・染色)と鏡検、 薬剤感受性試験と抗生物質)	細菌・真菌培養に必要な備品の準備及び手順について学ぶ。感染の定義を学び、感染源・感染経路の種類を知り、細菌・真菌の取り扱いを熟知する。
21	微生物学的検査(細菌・真菌③) (標本作成(固定・染色)と鏡検、 薬剤感受性試験と抗生物質)	基本的な感染性のある菌の固定法を学び、染色の色調の違いと判別法を知る。薬剤感受性試験の目的・手順を知り、効果的な抗生物質の種類・名称・効果について学ぶ。
22	手術①(手術補助、器具・機材の準備、麻酔前評 価、血管確保、麻酔とは(麻酔の種類など))	麻酔・手術の全体的な流れを学ぶ。周術期の管理について学ぶ。一般的な手術器具の名称と特徴を理解し、手術目的に合わせて準備および取り扱いができるようになる。
23	手術②(麻酔導入・気管確保、麻酔の維持・管理、 輸液管理(ライン管理・接続・輸液ポンプ設定)、 麻酔モニターと血液循環、麻酔記録)	年齢・動物種・身体検査・血液検査・X線検査などを行い、麻酔前の総合評価を行い、麻酔の安全性の評価をできるようになる。外科手術を補助するための血管確保の準備・手順・手技などを学び、的確に処置者のサポートができるようになる。
24	手術③(麻酔覚醒、術後管理 (術創保護・疼痛管理・アメニティー))	麻酔の定義とその麻酔の種類・特徴を学び、麻酔下の生理的な状態や危険性を理解する。麻酔導入方法の理解をする。麻酔導入薬の種類と薬理効果を学ぶ。気道確保の準備と手順を覚える。適切な気管チューブの選択とスムーズな手技の補助をできるようになる。動物の麻酔リスクを考えた上で、安全性を確保するために、術中の動物の状態を把握し、適切な麻酔維持ができるようになる。
25	手術④(麻酔覚醒、術後管理 (術創保護・疼痛管理・アメニティー))	手術中の輸液の目的を理解し、輸液剤の選択と輸液量の設定を考え実施できるようになる。五感を使ったモニター手技と機器を使ったモニターを並行し、最善の麻酔状況を維持できるようになる。心拍出と血圧・循環血液量を把握し血液循環を理解する。
26	手術⑤(麻酔覚醒、術後管理 (術創保護・疼痛管理・アメニティー))	麻酔中の記録を取ることの重要性を理解し実践する。麻酔覚醒の生理的状态を理解し、より安全でスムーズな麻酔覚醒を迎えるために必要な処置ができるようになる。術後の創傷管理の実践と疼痛管理の重要性を学び、動物の術後の安静とアメニティーを考える。
27	麻酔実習(歯石除去①) (術前管理(バイタル検診・血液検査)、麻酔前処置 (血管確保・送管準備・麻酔準備・酸素化))	身体検査や血液検査などを中心に、必要な検査を実施し、麻酔前の評価を行い事前に必要な処置について学ぶ。麻酔処置に必要な処置や補助をするために必要な基礎知識を学ぶ。
28	麻酔実習(歯石除去②) (麻酔導入(気管挿管・モニター設置・麻酔記録)、 麻酔維持(モニター管理・麻酔調節・輸液・保温)、 麻酔覚醒・術後管理(バイタルチェック・疼痛管理 ・輸液・保温))	麻酔導入方法の理解をする。麻酔導入薬の種類と薬理効果を学ぶ。気道確保の準備と手順を覚える。適切な気管チューブの選択とスムーズな手技の補助をできるようになる。五感や機器(HR・RR・SpO2・Etco2・麻酔濃度・血圧など)によるモニター法を学び、動物の状態を把握しながら麻酔調整や輸液の対応ができるようになる。麻酔覚醒の内容を理解し、抜管のタイミングを学びその後の疼痛管理や輸液・保温などの術後管理を身につける。
29	外科準備①(器具・機材の準備、ドレープの準備、 手術器具・術野・手指消毒、術着とグローブの装着)	手術に必要な器具・機材の準備・管理を適切に準備できる。ドレープ・ガウンの意味を理解し、適切なものを準備できる。

30	外科準備② (術者・手術助手と周術期管理)	用途に合わせた滅菌方法の選択と管理を学ぶ。使用効率や無菌操作を考えたドレープやガウンのたたみ方ができる。汚染源を限りなく少なくするために、帽子・マスクを装着し、無菌の術着とグローブの装着法を身に着ける。
31	外科準備③ (術者・手術助手と周術期管理)	手術の流れを知り、その周術期の看護を理解し、動物外科看護においての動物看護師の役割を学ぶ。
32	去勢手術①(器具・機材・ドレープ・術衣の準備・滅菌、術野・手指消毒、術着とグローブの装着、術前管理(バイタル検診・血液検査)、麻酔前処置)	手術器具とドレープ類の準備と滅菌法を学ぶ。使用薬剤や縫合系などの準備ができる。滅菌の概念を理解し、手指および術野の消毒を学ぶ。帽子とマスクを装着し、無菌的にガウン・グローブの装着法を身につける。
33	去勢手術②(血管確保・送管準備・麻酔準備・酸素化、麻酔導入(気管挿管・モニター装着・麻酔記録)、麻酔維持(モニター管理・麻酔調節・輸液・保温))	麻酔前の動物に安全に麻酔を実施できるか身体検査・血液検査などをから総合評価をする。血管確保の準備と手順を確認し、麻酔前の酸素化の重要性を理解し、注射麻酔導入から吸入麻酔への移行がスムーズに行えるよう準備する。
34	去勢手術③(手術実施、術後管理(術創保護・疼痛管理・アメニティー))	気管挿管の補助、モニター機器の接続を行い、麻酔記録の記入をしながら動物の状態を把握する。モニタリングの必要性を理解する。動物の安全を確保するために麻酔中の動物の状態を把握し必要な処置をしながら維持管理に務める。
35	去勢手術④(手術実施、術後管理(術創保護・疼痛管理・アメニティー))	術野の消毒、手指の消毒、術着・グローブの装着を実践し、助手による器具出し、ドレープ掛けなどを行い、実際の去勢手術を行う。手術後の創傷管理の方法について学ぶ。鎮痛薬の投与目的を理解し、投与のタイミングを考える。

科目	動物外科看護学実習	学科/学年	動物看護科 1年	時間数	30	授業回数	15
担 当 教 員		立 花 徹			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	実習
学 習 目 標		手術準備や術中・術後管理、麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科学で学んだ知識の実践力を修得し、実践力を身に付ける。					
使 用 教 材							
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ マ		内 容				
1	外科診療時の補助に必要な技術の確認①		手術はどのように進められているのか一連の流れを知る。また、周術期看護を理解し、動物外科看護においての動物看護師の役割を学ぶ。				
2	外科診療時の補助に必要な技術の確認②		手術はどのように進められているのか一連の流れを知る。また、周術期看護を理解し、動物外科看護においての動物看護師の役割を学ぶ。				
3	外科診療時の補助に必要な技術の確認③		手術はどのように進められているのか一連の流れを知る。また、周術期看護を理解し、動物外科看護においての動物看護師の役割を学ぶ。				
4	外科診療時の補助に必要な技術の確認④		手術はどのように進められているのか一連の流れを知る。また、周術期看護を理解し、動物外科看護においての動物看護師の役割を学ぶ。				
5	外科診療時の補助に必要な技術の確認⑤		手術はどのように進められているのか一連の流れを知る。また、周術期看護を理解し、動物外科看護においての動物看護師の役割を学ぶ。				
6	無菌操作の重要性の確認①		手術時、手指を清潔に保つ必要があることを学び実際に手洗い方法を実践する。また、無菌的なマスク・ガウン・グローブの装着を行い無菌操作の必要性を確認する。				
7	無菌操作の重要性の確認②		手術時、手指を清潔に保つ必要があることを学び実際に手洗い方法を実践する。また、無菌的なマスク・ガウン・グローブの装着を行い無菌操作の必要性を確認する。				
8	無菌操作の重要性の確認③		手術時、手指を清潔に保つ必要があることを学び実際に手洗い方法を実践する。また、無菌的なマスク・ガウン・グローブの装着を行い無菌操作の必要性を確認する。				
9	手術前の動物に必要な管理と関わりを知る①		犬、猫の避妊手術を想定し衛生的に手術を行うための動物の管理と関わりを学ぶ。実際の動物を使用し実践する。				
10	手術前の動物に必要な管理と関わりを知る②		犬、猫の避妊手術を想定し衛生的に手術を行うための動物の管理と関わりを学ぶ。実際の動物を使用し実践する。				
11	手術前の動物に必要な管理と関わりを知る③		犬、猫の避妊手術を想定し衛生的に手術を行うための動物の管理と関わりを学ぶ。実際の動物を使用し実践する。				
12	手術前の動物に必要な管理と関わりを知る④		犬、猫の避妊手術を想定し衛生的に手術を行うための動物の管理と関わりを学ぶ。実際の動物を使用し実践する。				
13	手術室の環境管理①		手術室だけではなく手術に使用する器具や機器などの手入れ管理方法などを学ぶ。機器の正常な稼働を確認し、酸素ボンベ、麻酔器、その他の配置を考え実際に使用するよう設置する。				
14	手術室の環境管理②		手術室だけではなく手術に使用する器具や機器などの手入れ管理方法などを学ぶ。機器の正常な稼働を確認し、酸素ボンベ、麻酔器、その他の配置を考え実際に使用するよう設置する。				
15	手術室の環境管理③		手術室だけではなく手術に使用する器具や機器などの手入れ管理方法などを学ぶ。機器の正常な稼働を確認し、酸素ボンベ、麻酔器、その他の配置を考え実際に使用するよう設置する。				

科目	動物外科看護学実習	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	60	授業回数	30
担 当 教 員		立 花 徹			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	実習
学 習 目 標		手術準備や術中・術後管理、麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科学で学んだ知識の実践力を修得し、実践力を身に付ける。					
使 用 教 材							
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ ー マ		内 容				
1	滅菌と消毒の実践①		滅菌、消毒の概念を理解したうえで用途に合わせた滅菌、消毒方法を選択し適切に使用ができるよう実践する。				
2	滅菌と消毒の実践②		滅菌、消毒の概念を理解したうえで用途に合わせた滅菌、消毒方法を選択し適切に使用ができるよう実践する。				
3	滅菌と消毒の実践③		滅菌、消毒の概念を理解したうえで用途に合わせた滅菌、消毒方法を選択し適切に使用ができるよう実践する。また、滅菌した物の安全保管期間を把握し管理ができるよう実践する。				
4	手術施設、設備の準備と管理①		機材の管理方法を確認し消耗品の管理と保存管理の現状を確認し実践する。				
5	手術施設、設備の準備と管理②		機材の管理方法を確認し消耗品の管理と保存管理の現状を確認し実践する。				
6	手術施設、設備の準備と管理③		機材の管理方法を確認し消耗品の管理と保存管理の現状を確認し実践する。				
7	手術施設、設備の準備と管理④		機材の管理方法を確認し消耗品の管理と保存管理の現状を確認し実践する。				
8	術者に必要な準備①		手洗いの技術、キャップ、マスク、ガウンの着脱の正しい手順と介助、グローブの装着、無菌の意味と触れてはいけない範囲を再認識して実践する。				
9	術者に必要な準備②		手洗いの技術、キャップ、マスク、ガウンの着脱の正しい手順と介助、グローブの装着、無菌の意味と触れてはいけない範囲を再認識して実践する。				
10	術者に必要な準備③		手洗いの技術、キャップ、マスク、ガウンの着脱の正しい手順と介助、グローブの装着、無菌の意味と触れてはいけない範囲を再認識して実践する。				
11	手術チームの準備①		無菌、滅菌、消毒の知識の実践				
12	手術チームの準備②		無菌、滅菌、消毒の知識の実践				
13	手術器具の準備と基礎知識①		器具の名称と役割を知る、適材適所の用途、落ち度のない準備のためのチェック表活用方法、縫合材料の確認、消耗品の確認を実践する。				
14	手術器具の準備と基礎知識②		器具の名称と役割を知る、適材適所の用途、落ち度のない準備のためのチェック表活用方法、縫合材料の確認、消耗品の確認を実践する。				
15	手術器具の準備と基礎知識③		器具の名称と役割を知る、適材適所の用途、落ち度のない準備のためのチェック表活用方法、縫合材料の確認、消耗品の確認を実践する。				

16	手術器具の準備と基礎知識④	器具の名称と役割を知る、適材適所の用途、落ち度のない準備のためのチェック表活用方法、縫合材料の確認、消耗品の確認を実践する。
17	危険物管理、医療廃棄物の実際①	動物看護師が理解を深めておくべき危険物管理・医療廃棄物について学ぶ
18	危険物管理、医療廃棄物の実際②	動物看護師が理解を深めておくべき危険物管理・医療廃棄物について学ぶ
19	術前、術中の動物管理と看護①	衛生的に行える手術を想定し動物の毛刈りを実施。消毒剤を使用し術野の消毒を実施する。
20	術前、術中の動物管理と看護②	衛生的に行える手術を想定し術野の消毒を実施。内部から外部の消毒方法を理解した上で実施する。
21	術前、術中の動物管理と看護③	動物の切開部分を考慮しドレープを配置。適切なドレープの持ち方、かけ方を身に付ける。
22	術中の補助①	モニターによる管理と数値の報告。輸液管理、獣医師指示のもと麻酔濃度管理、器具出し、獣医師指示による助手業務を理解する。
23	術中の補助②	モニターによる管理と数値の報告。輸液管理、獣医師指示のもと麻酔濃度管理、器具出し、獣医師指示による助手業務を理解する。
24	術中麻酔に関する基礎①	麻酔の定義を復習し麻酔上体を理解。局所麻酔、全身麻酔の定義を理解する。
25	術中麻酔に関する基礎②	急速導入法と緩徐導入法を理解する。導入薬の種類、薬理効果を理解し、実施する。
26	術中麻酔に関する基礎③	一般的な麻酔器の構造を理解し手術中の麻酔管理をする。
27	術後の管理①	創傷治療を理解し速やかに行えるよう援助する方法を学ぶ。
28	術後の管理②	術部、創傷部の観察ポイントや管理における消毒法の理解を学び実施する。痛みの程度を各種ペインスケールを利用し評価する。
29	術後の管理③	覚醒にむけての準備、バイタルチェック、術創の保護、看護動物への絶食・絶水の管理。飼い主への術後注意事項の説明なども合わせて学び実施する。
30	衛生管理	手術室の衛生管理、術中使用したものの衛生管理、モニターの管理等を実際に行って復習する。

科目	動物臨床看護学実習	学科/学年	動物看護科 1年	時間数	30	授業回数	15
担当教員		濱 本 大 気			実務経験 □有 □無	授業形態	実習
学 習 目 標		修得した知識の実践力を身に付ける。 動物看護過程や疾患別看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。					
使 用 教 材		ファームプレス 第6巻					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ ー マ		内 容				
1	動物看護過程①		動物看護過程の展開・動物病院実習時に見学した事例や想定した事例で動物看護過程を展開する。				
2	動物看護過程②		動物看護過程の展開・動物病院実習時に見学した事例や想定した事例で動物看護過程を展開する。				
3	動物看護過程③		動物の状況の変化に応じた看護上の問題やニーズをあげ、適切な対応を考える。				
4	動物看護過程④		動物の状況の変化に応じた看護上の問題やニーズをあげ、適切な対応を考えテーマに沿った内容を実施する。				
5	動物看護過程⑤		動物の状況の変化に応じた看護上の問題やニーズをあげ、適切な対応を考えテーマに沿った内容を実施する。				
6	動物看護過程⑥		動物看護計画を立て、評価,修正を実施する。				
7	動物看護過程⑦		動物看護計画を立て、評価,修正を実施する。				
8	動物看護過程⑧		動物看護計画を立て、評価,修正を実施する。				
9	動物看護記録を作成する①		実際の飼育管理や飼養管理の記録と異なることを認識し実際の場での記録の見学や事例による動物看護過程の展開の記録を作成する。				
10	動物看護記録を作成する②		実際の飼育管理や飼養管理の記録と異なることを認識し実際の場での記録の見学や事例による動物看護過程の展開の記録を作成する。				
11	動物看護記録を作成する③		実際の飼育管理や飼養管理の記録と異なることを認識し実際の場での記録の見学や事例による動物看護過程の展開の記録を作成し、実際に使用する。				
12	動物看護記録を作成する④		実際の飼育管理や飼養管理の記録と異なることを認識し実際の場での記録の見学や事例による動物看護過程の展開の記録を作成し、実際に使用する。				
13	症状別の動物看護①		痛みの表し方・ペインスケールを活用する。				
14	症状別の動物看護②		痛みのある動物の看護法を考え快適な生活を送れるよう実習する。				
15	症状別の動物看護③		痛みのある動物の看護法を考え快適な生活を送れるよう実習する。				

科目	動物臨床看護学実習	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	30	授業回数	15
担 当 教 員		若 山 明 子			実務経験 □有 ☒ 無	授業形態	実習
学 習 目 標		修得した知識の実践力を身に付ける。 動物看護過程や疾患別看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。					
使 用 教 材		ファームプレス 第6巻					
評 価 基 準		試験・授業態度・提出物					
	テ マ		内				

科目	動物看護総合実習	学科/学年	動物看護科 1.2年	時間数	1年 120 2年 60	授業 回数	1年 60 2年 30
担 当 教 員	片 桐 麻 里 奈（1年）			実務経験 ☑有 ☐無	授業形態	実習	
担 当 教 員	若 山 明 子（2年）			実務経験 ☐有 ☑無	授業形態	実習	
学 習 目 標	修得した知識と技術が実際の動物医療現場でどのように活かされるのか動物病院で体験・実習する。動物病院の施設構造、機能を理解し動物看護が行われている場の環境を理解することで獣医療現場での臨床経験から看護動物や飼い主への配慮を含むより実践的な看護と専門知識及び倫理観を修得する。また、チーム獣医療の現場から診療の流れ専門職としての役割を体験し、臨床現場ならではの臨場感を体験する。						
使 用 教 材							
評 価 基 準	評価表・ポートフォリオ						
	テ ー マ		内 容				
1	体験型実習①		体験型実習前のオリエンテーション動物病院実習に入る前に必要な知識、心構えを理解する。（1年次前期・2時間）				
2	体験型実習②		動物病院内で動物看護師の実際の業務や獣医師との連携を理解する。学内でのカリキュラム、各教科と実際の業務との関連を知ることで、必要性や目的を理解し意欲の向上を図る。（1年次前期・56時間）				
3	体験型実習③		体験型実習の振り返りを行う。（1年次前期・2時間）				
4	補助型実習①		補助型実習前のオリエンテーション体験型実習を終え補助型体験において必要な知識、心構えを理解する。（1年次後期・2時間）				
5	補助型実習②		学内で修得した知識や技術が動物看護業務を実践する上で必須であることを理解する。飼い主対応や処置室での臨床症例を見学し可能な範囲で体験学習するなかで円滑な人間関係を築く。（1年次後期・56時間）				
6	補助型実習③		補助型実習の振り返りを行う。（1年次後期・2時間）				
7	実務型実習①		実務型実習前のオリエンテーション補助型実習を終え実務型体験において必要な知識、心構えを理解する。（2年次前期・2時間）				
8	実務型実習②		総合的な動物看護の実務能力を修得するための指導を受け、動物看護師実務能力を修得する。動物看護師としての役割や責任についての認識を深める。（2年次前期・56時間）				
9	実務型実習③		実務型実習の振り返りを行う。（2年次前期・2時間）				

科目	美容学概論	学科/学年	動物看護科 1年	時間数	16	授業回数	8
担 当 教 員		北 川 道 子			実務経験 □有 □無	授業形態	実習
学 習 目 標		1.犬のグルーミングについて詳しく知るために、犬という動物の体についての基礎を学習し理解する。 2.被毛の構造やシャンプー・リンスの特性などを理解し、使いこなすための知識を習得する。 3.各種道具の使い方やお手入れ方法、毛質により違う道具の使い分け方を理解する。					
使 用 教 材		グルーミングマニュアル・配布資料					
評 価 基 準		試験・授業態度					
	テ マ		内				

科目	美容学概論	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	16	授業回数	8
担 当 教 員		北 川 道 子			実務経験 □有 ☒ 無	授業形態	実習
学 習 目 標		トリミングをする上で重要な犬の扱い方やグルーミングの方法、犬種によるカットの違いを学ぶことで、各犬種にあった基本的なトリミング方法や形、ハサミの入れ方などを学習し理解することが目標					
使 用 教 材		グルーミングマニュアル・配布資料					
評 価 基 準		試験・授業態度					
	テ マ		内				

科目	動物看護飼育美容実習	学科/学年	動物看護科 1年	時間数	270	授業回数	135
担 当 教 員		鎌 田 絵 里			実務経験 □有 ☒ 無	授業形態	実技
学 習 目 標		1.バイタルサインを実施し、動物のからだを深く知る。 2.実習を通して保定の技術を習得する。 3.トリミングをする上で重要となる犬の保定・犬の扱い方、道具の使い方などの基礎を習得する。 4.犬種によりカット方法が異なり、各犬種のハサミの使い方や形を理解する。					
使 用 教 材		実習犬・グルーミングマニュアル・道具一式					
評 価 基 準		試験・授業態度					
	テ ー マ		内				

科目	動物看護飼育美容実習	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	300	授業回数	150
担当教員		若山明子			実務経験 □有 ☒ 無	授業形態	実技
学習目標		1.バイタルサインを実施しながら健康な動物を理解する。 2.負担のないトリミングを実施する。 3.実習を通して様々な犬種のカットを時間内にでき、飼い主の要望に応えられる高い技術力を身につける。 4.実習を通して様々な保定術を身に付ける。					
使用教材		実習犬・グルーミングマニュアル・道具一式					
評価基準		試験・授業態度					
	テーマ		内 容				
1	グルーミング実習①（シザーリング、ブラッシング、コーミング、シャンピング）		バイタルサインを確認しながら負担のないトリミングを実施する。一年次で修得したグルーミングの基礎とシザーが正しく持てるかを再確認する。				
2	グルーミング実習② （クリッピング、カット）		バイタルサインを確認しながら負担のないトリミングを実施する。時間短縮を心掛け、毛質の違いにあったシザーワークをし、全ての作業を安全に進める。				
3	グルーミング実習③ （カット）		バイタルサインを意識しながら負担のないトリミングを実施。犬種別のカットを理解し、仕上げの美しさ、可愛らしさを追求したトリミングができる。				
4	グルーミング実習④ （カット）		バイタルサインを意識しながら負担の少ないトリミングを実施。犬種別のカットの理解を深め、飼い主のオーダーを意識し、細部までこだわりをもちカットする。				
5	グルーミング実習⑤ （カット応用）		バイタルサインを意識し、保定においても動物の負担がないトリミングを実施。犬種はもちろん、その個体にあったカットがバランスよく切れ、時間内に一人で完成させることができる。				
6	グルーミング実習⑥ （カット応用）		バイタルサインを意識し、保定においても動物の負担がないトリミングを実施。プードルのケネル&ラムクリップを再確認し、完成度を上げる。				